

豊岡
グッドローカル
農業

Toyooka Good Local Agriculture



は・じ・め・に

豊岡の農業は、可能性に満ちていて、かつ苦境に立っています。

2005年の世界農林業センサスによる豊岡の販売農家の農業経営者数は、3,778人で、そのうち70歳以上の方が占める割合は約33%でした。10年後の2015年では、2,543人で、70歳以上の方が占める割合は約41%でした。農業経営者が減り、しかも高齢化が進んでいます。その傾向は、さらに進んでいくことが確実視されています。

豊岡の農業は、先細りする一方のように見えます。

このままでは、豊岡の農業を守る人はいなくなってしまうのではないかと私たちは、強い危機感を持っています。

他方、豊岡市は、2013年度から独自の新規就農者研修制度「豊岡農業スクール」を開校し、若い担い手の育成に努めてきました。幸い、2019年度末までに16名が卒業後に市内で就農しています。また他にも15名の新規就農者があるなど、“豊岡で農業がしたい”という若者は増えてきました。

コウノトリ育む農法は毎年着実に増え続けており、国内での販売のみならず、コウノトリ育むお米の輸出も広がっています。

可能性は、まだまだあります。

そこで、豊岡の厳しい現実を踏まえつつ、豊岡の農業の可能性をどのように具現化し、「豊岡で農業をする価値」と「豊岡の農業の価値」をどのように高めていくのか、その基本的視点と方策を「豊岡市農業ビジョン」として取りまとめることにしました。

この先も、豊岡市の農業施策はトップランナーとして走り続けてまいります。

合言葉は、「豊岡グッドローカル農業」です。



2020年3月
豊岡市長 中貝宗治

豊岡市農業ビジョン策定検討委員からのメッセージ

「豊岡市農業ビジョン策定検討委員会」は、2018年秋から2020年2月までの間、計7回の委員会を開催し、“10年後の豊岡の農業を守る礎”となる「農業ビジョン」について検討してまいりました。13名の委員の、豊岡市やそこでの農業とのかかわり方は多様でした。しかしながら共通していたのは、コウノトリとの共生を図りつつ歩んできた「豊岡の農業」をさらに豊岡らしくしたうえで、その持続性を確保したいという思いでした。そのような思いを共有しつつ、また豊岡市農業のこれまでの道筋に思いをはせつつ、今後の農業についてそれぞれの専門的知見を共有し、議論を重ねてきた集大成がこの「豊岡市農業ビジョン」です。

ビジョンの骨格をささえるのは、これからの豊岡農業の持続性をさらに強化するためには、あらためて豊岡らしい農業を再定義し、それが農業者のみならず農業に関わるすべての人により共有される、言葉を変えるなら「共通の哲学」となる必要があるとの考え方です。そのうえで、今後の豊岡の農業を「豊岡グッドローカル農業」と表現し、それが持続可能で幸せを感じる社会の実現に貢献する道筋を示すこととしました。

豊岡市民は、豊岡特有の地形地質、気候風土など、自然と折り合いながら暮らしてきました。また、コウノトリが住める環境も、農業生産活動と生き物との折り合いをつけることで作り上げてきました。さらには、それぞれの地域に根差した協働の歴史もさまざまな「折り合い」を支えてきました。

「豊岡グッドローカル農業」は、そのような「折り合い」を今日的な観点で見直しそれを持続的にしようとするものです。豊岡の農業が「環境」「経済」「社会」の適切なバランスを支え、それら3つの要素を繋げる中核的な存在になろうとの宣言でもあります。「豊岡グッドローカル農業」の12の要素にはそのような思いが込められています。

また、「豊岡グッドローカル農業」は行政が「上から」基準を決めてそれを農業者が遵守するものではなく、豊岡の農業に関わる人たちが皆で作り上げていくことにも大きな特徴があります。それにより、「豊岡グッドローカル農業」という共通の哲学が真に社会的に共有されることを強く期待するものです。そして、その期待は、「小さな世界都市」豊岡からその哲学がより広い範囲に及ぶ期待にもつながります。今は聞きなれない「豊岡グッドローカル農業」が、コウノトリと同じように広い世界に羽ばたいていくことを願っています。

最後に、本検討委員会での議論を実りあるものにするために多大なご尽力をいただいた豊岡市役所の関係者の皆様にも心よりの謝意を表すものです。本委員会はその議論を踏まえて何回かの大きな修正を行いました。そのような柔軟性を確保できた背景には、事務局の皆様による背景データやさまざまな情報についての適切な分析整理が常にありました。記して御礼申し上げます。

2020年3月

豊岡市農業ビジョン策定検討委員一同

目次

第1章 豊岡市農業ビジョンとは	1
1 ビジョンの目的	1
2 ビジョンの期間	1
3 ビジョンの位置づけ	1
第2章 豊岡農業の現状	2
1 豊岡農業の現状と問題点	2
2 農業関係者の意向	5
3 豊岡農業の特徴	7
4 豊岡農業を取り巻く動向と期待	9
第3章 豊岡農業の将来ビジョン	11
1 将来ビジョンを設定するにあたって	11
2 豊岡農業の将来ビジョン	13
3 将来ビジョンの実現に向けたシナリオ	18
第4章 戦略目的と主要手段と取組方策	21
1 3つの戦略目的と6つの主要手段	21
2 取組方策の体系	22
3 取組方策	23
第5章 ビジョンの推進	29
1 関係者の役割	29
2 進行管理の仕組み	31
■資料編	
1 地域別の農業の現状に関する基礎情報	32
2 策定体制と経過	39
3 用語集	43

第1章 豊岡市農業ビジョンとは

1 ビジョンの目的

2015年度の農林業センサスによると、豊岡市の販売農家の農業経営者のうち、70歳以上が約41%、60歳以上だと約77%を占めており、担い手の高齢化が進んでいます。このままでは、10年後には豊岡の農業を支える人材が圧倒的に不足してしまいます。また、その他にも多くの課題があり、農業衰退の恐れがあります。

一方、豊岡市の農業は、持続可能な社会の実現に向けて、コウノトリ育む農法、環境創造型農業など、世界に誇れる取組を行ってきており、様々な魅力を持ち合わせています。世界的に持続可能な社会やSDGsへの関心が高まる中、先んじて「コウノトリとの共生社会」に挑戦してきた価値観を踏まえ、豊岡市がめざす将来の農業ビジョンを策定します。

2 ビジョンの期間

2020～2029年の10年間とします。

なお、中間年である2024年に、ビジョンの進捗状況や農業を取り巻く情勢の変化等に対応して、ビジョンの中間見直しを行います。

3 ビジョンの位置づけ

基本構想及び基本計画を上位計画とする農業部門の計画です。

第2章 豊岡農業の現状

1 豊岡農業の現状と問題点

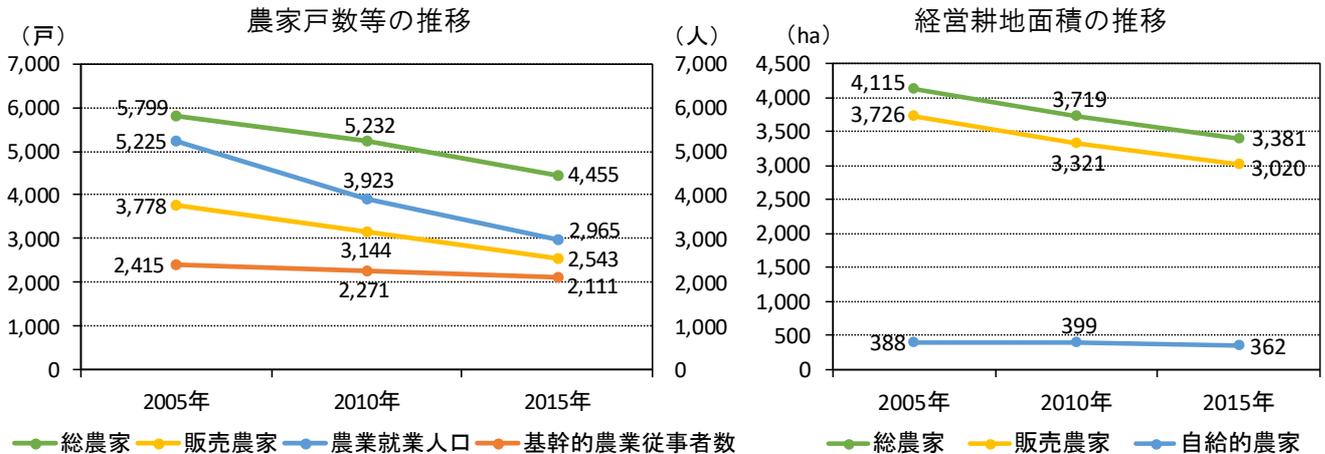
豊岡市の農業のおもな現状と問題点は以下のとおりです。

①担い手の減少・高齢化と後継者不足

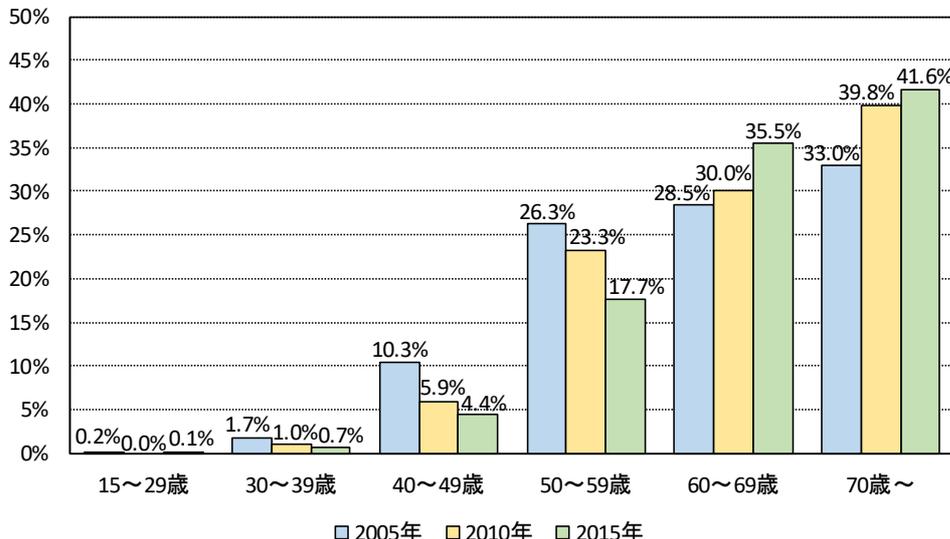
- ・2015年の総農家は4,455戸、うち販売農家は2,543戸で、ともに減少傾向です。農業就業人口、基幹的農業従事者数もともに減少しています。
- ・販売農家の農業経営者のうち、70歳以上が占める割合が約41%となっており、60歳以上まで含めると約77%と、年々高齢化が進んでいます。
- ・販売農家のうち、「後継者がいない」農家が52%と、後継者不足が深刻となっています。

②経営耕地面積の減少と耕作放棄地の増加

- ・2015年の総農家の経営耕地面積は3,381haで、2005年の4,115haから10年間で約2割減少しています。
- ・一方、耕作放棄地面積は2015年で502haとなっており、2005年の389haから10年間で約3割増加しています。



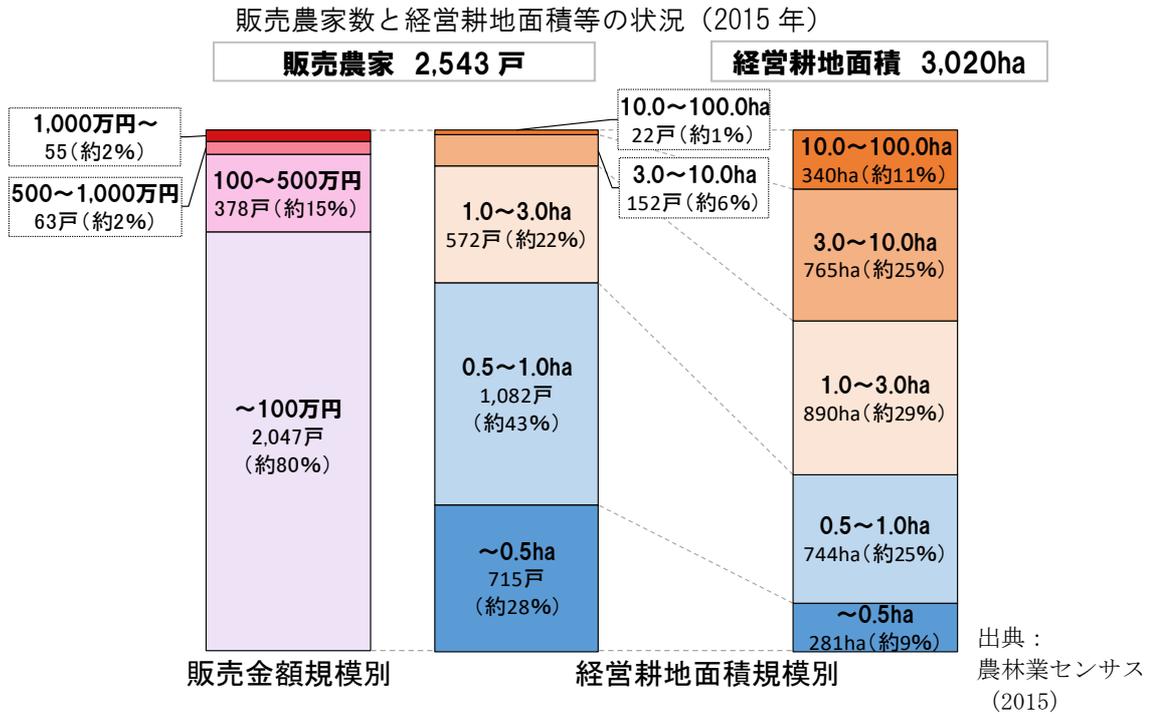
販売農家の農業経営者数の年代別割合とその推移



出典：
農林業センサス（2005, 2015）
世界農林業センサス（2010）

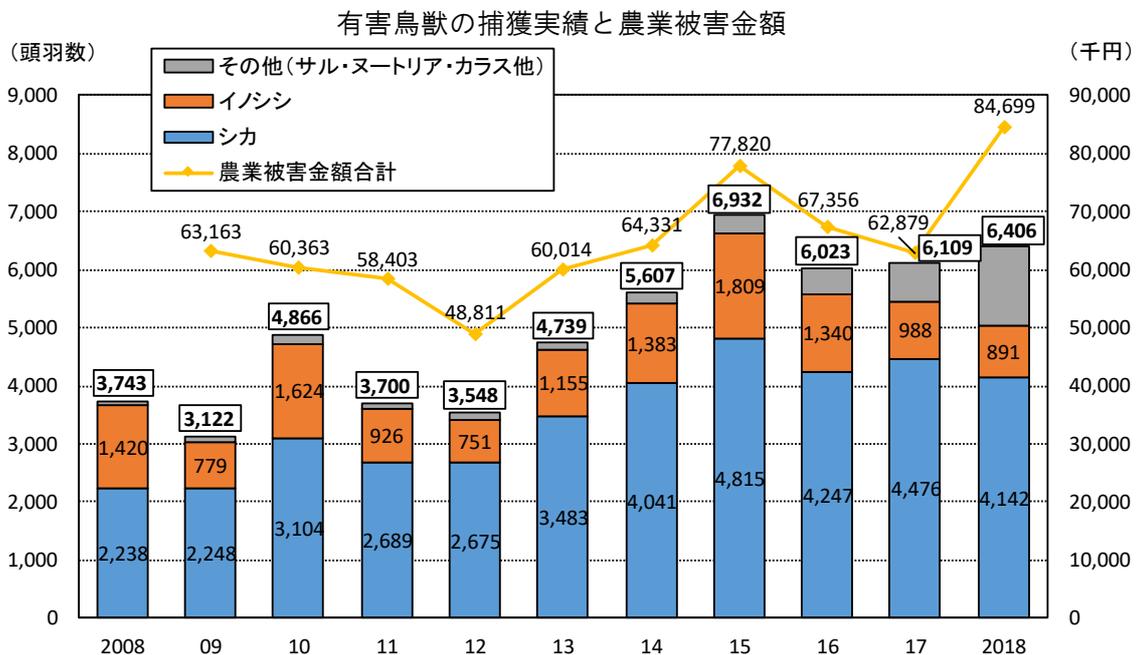
③小規模な農家が多い

- ・販売農家は2,543戸あり、その経営耕地面積は3,020haです。
- ・販売農家のうち、全体の約80%が販売金額100万円未満、約71%が経営耕地面積1.0ha未満と、販売金額、経営耕地面積ともに小規模な農家が多くなっています。
- ・一方、販売農家数の約29%にあたる経営耕地面積1ha以上の販売農家が、経営耕地面積全体の約65%を耕作しています。



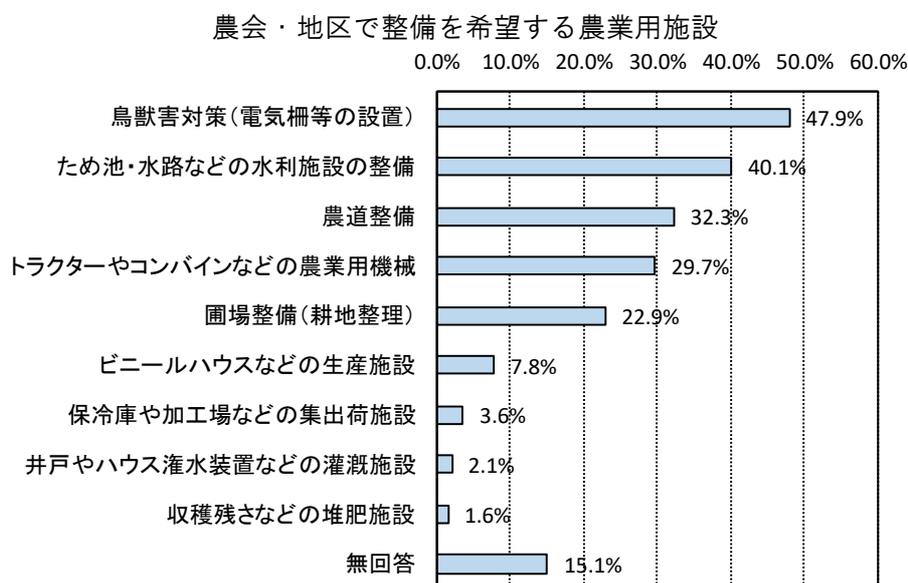
④野生動物による農作物被害

- ・野生動物による農作物被害は、依然として農業者に深刻な影響を与えており、生産意欲の減退や農地荒廃の一因となっています。
- ・捕獲実績は増加傾向にあります。更なる防除対策や捕獲対策を継続して推進していく必要があります。



⑤農業用施設・機械の維持に関する負担の増大

- ・鳥獣害対策や水利関係の施設、農道、農業用機械などの整備が多く希望されています。
- ・農業経営において必要な設備や機械の負担が大きく、農業経営を圧迫しています。



出典：農会アンケート（2018年実施）

⑥水稲以外の柱になる特産物が弱い

- ・経営耕地面積のうち9割以上が水田であり、水稲中心の生産になっています。
- ・農業産出額約121億円のうち、鶏卵・ブロイラーが最も多く約46%を占め、米が約32%、野菜が約12%、その他が約10%となっています。
- ・豊岡市には「コウノトリ育むお米」という誇れる特産品がある一方で、それ以外の特産品といえる農産物が少ないという声もあがっています。

農業産出額（推計）

	農業産出額[a]		経営体数[b]		a/b(万円)
	(千万円)	(%)	(経営体)	(%)	
米	384	31.7	2,172	83.3	177
麦類	0	0.0	10	0.4	0
雑穀	0	0.0	91	3.5	0
豆類	6	0.5	222	8.5	27
いも類	3	0.2	153	5.9	20
野菜	147	12.1	493	18.9	298
果実	12	1.0	103	4.0	117
花き	5	0.4	47	1.8	106
工芸農作物	0	0.0	13	0.5	0
その他	1	0.1	27	1.0	37
耕種計	654	53.9			
肉用牛	49	4.0	26	1.0	1,885
乳用牛	35	2.9	16	0.6	2,188
うち生乳	29	2.4			
豚	x	x	1	0.0	x
鶏	560	46.2			
うち鶏卵	181	14.9	7	0.3	25,857
うちブロイラー	378	31.2	7	0.3	54,000
その他畜産物	x	x			
畜産計	654	53.9			
加工農産物	-	-			
合計	1,213	100.0	2,606	100.0	465

※農業産出額：2017年推計値
農業経営体数：2015年値

出典：市町村別農業産出額（推計）（2017）
農林業センサス（2015）

2 農業関係者の意向

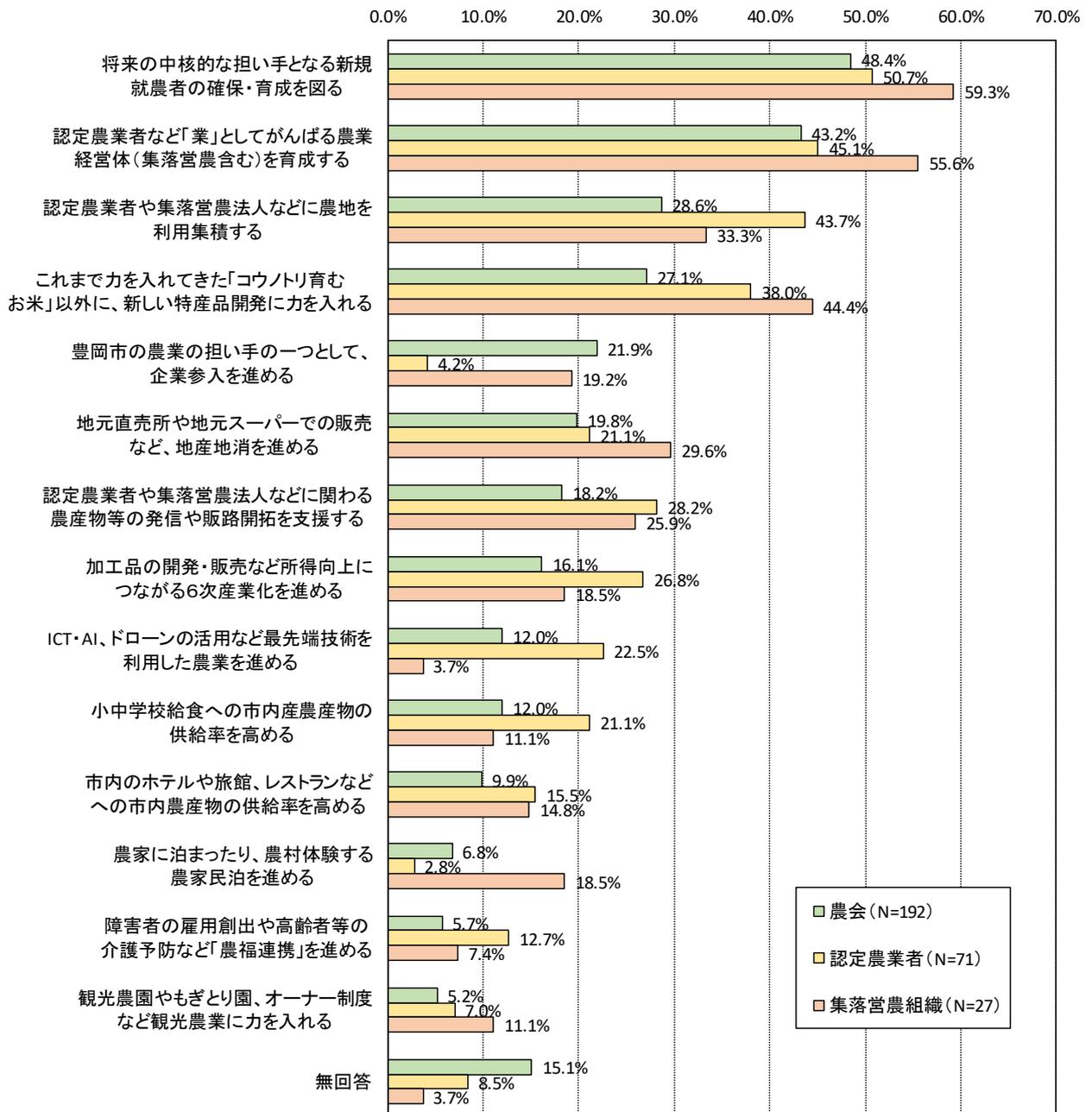
豊岡市の農会、認定農業者、集落営農組織に対して2018年度に行ったアンケート調査の主な結果を以下に示します。

(1) アンケートからみた農業関係者の意向

① 豊岡市全体の農業をよくするために重要なのは「新規就農者の確保・育成」、「農業経営体の育成」など

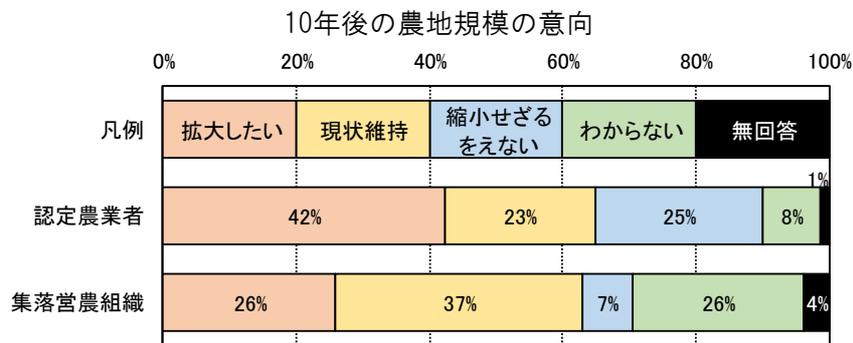
- ・ どの回答者属性からも、「新規就農者の確保・育成」、「農業経営体の育成」や「農業経営体への農地の利用集積」は豊岡市全体の農業をよくする取組として支持されています。
- ・ また、「コウノトリ育むお米」以外の新しい特産品開発も一定の指示を集めています。

豊岡市全体の農業をよくするための取組の意向



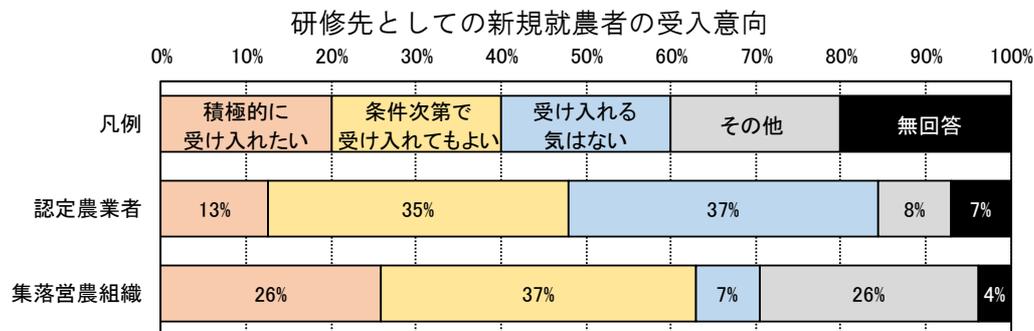
②主な担い手の多くが将来の農地規模は「現状維持」ないし「拡大」を希望

- ・認定農業者も集落営農組織も、10年後の経営耕地面積について「現状維持」と「拡大」の意向が6割以上となっています。



③主な担い手の半数程度が研修先として新規就農者を受け入れることに前向き

- ・認定農業者の約半数、集落営農組織の6割程度が、研修先として新規就農者を受け入れることに前向きです。



(2)ヒアリングによる農業関係者の意向

豊岡市の農業関係者に2018年度に行ったヒアリング調査の主な結果を以下に示します。

●新規就農の研修・支援

- ・農業スクール生は孤独になりやすいため、メンター制度など相談できる仕組みが必要。
- ・新規就農者や農業スクール生は、地域や市内の先輩農家とのコミュニケーションが重要。

●技術向上・人材育成

- ・女性農業者でもわかる機械の実技講習をやってほしい。
- ・豊岡の農業の状況に合った農業経営塾をやるべき。

●流通の効率化・工夫

- ・今後は業務用米の需要が増えるため、大規模農家間などでの連携が必要になる。個別の農家や農業法人ではなく、複数の大規模法人が出資した販売会社が専門的に販売するのがよい。

●集落営農について

- ・人材不足により個別集落での営農組合は維持が難しい。集落を越えた広域で対応が必要。
- ・集落や地区ごとに農業ビジョンが必要。人農地プランの策定・見直しが必要。

●特色ある取組

- ・無農薬のコウノトリ育むお米を学校給食で使ってほしい。PTAにも知ってほしい。
- ・グローバルGAPと有機JASを取得したコウノトリ育むお米を栽培し、輸出を増やしたい。
- ・特定の品目をつくりたい人を募集して産地化を促進するなど、豊岡らしい取組も必要。

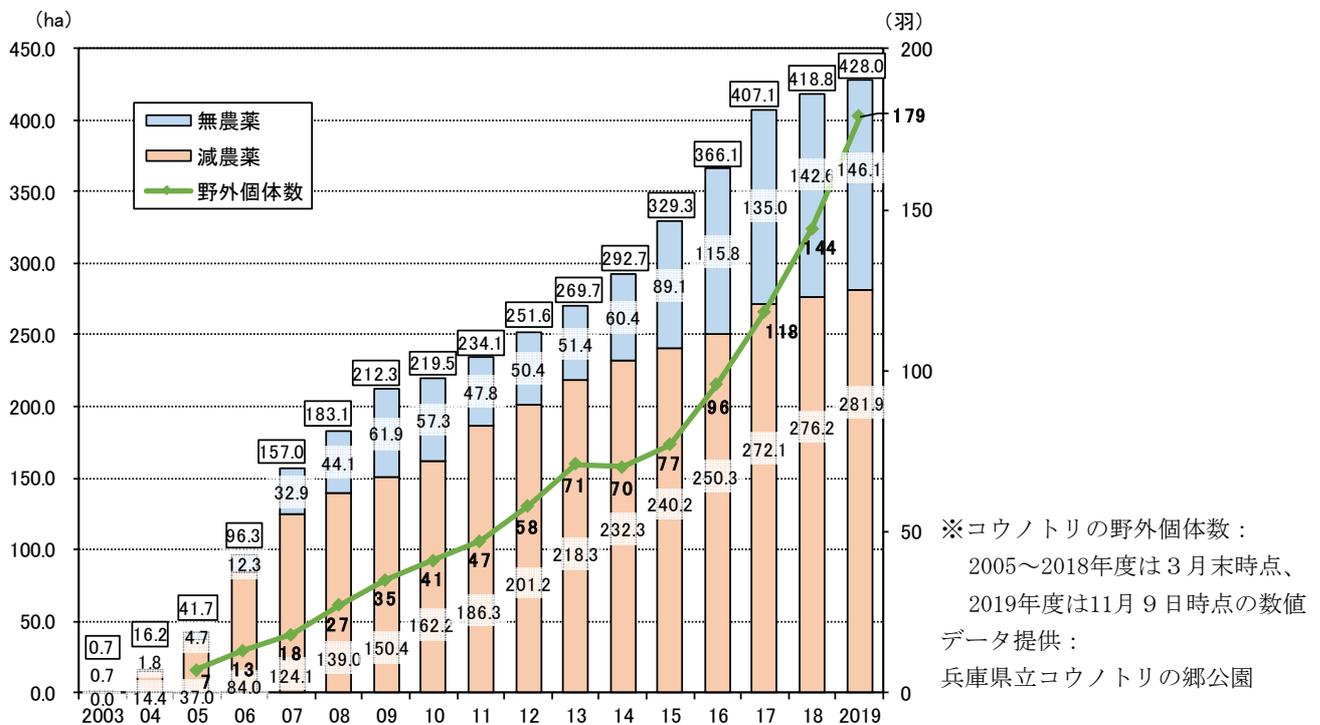
3 豊岡農業の特徴

豊岡市の農業の特徴のうち、特に強みについては以下の通りです。

①コウノトリ育む農法の取組と広がり

- ・豊岡市は、持続可能な社会へ向けた取組として、世界に誇れるコウノトリ育む農法の取組を長年続けています。
- ・コウノトリ育む農法により生産されたお米は、一般米の約1.2～1.6倍の高値で買取られており、生産者の所得向上にも繋がっています。
- ・また、国内約500店や海外への販売も行われており、販路も拡大しています。作付面積は右肩上がりに増え続け、2017年に400haを超え、2019年度には約428haまで増加しました。

コウノトリ育む農法の栽培面積とコウノトリの野外個体数の推移



②グローバルGAPを取得した農産物生産

- ・2018年1月、JAたじまの特別栽培米コシヒカリ「コウノトリ育むお米」（無農薬・無化学肥料栽培）がグローバルGAP（GLOBAL G. A. P.）の認証を取得しました。全国652（当時）のJAで無農薬主食用米としては初の取得です。また、シンガポールへの輸出が始まっており、グローバルGAP認証米の輸出もJAとして初めてです。
- ・GAPの認証取得は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会において選手村で提供される食材の調達基準となっているなど、今後もGAP認証の農産物の販路拡大が期待されます。

③集落営農や法人等の担い手

- ・豊岡市では、52の集落営農組織や134戸の認定農業者、農業に携わる法人など（2019年12月現在）が活動しており、それぞれの地域で農産物生産の役割を大きく担っています。

※認定農業者の経営耕地面積は計1,174ha（総農家経営耕地面積の約34%）、集落営農組織は計344ha（同約10%）。ただし認定農業者と集落営農法人の一部は重複している。

④広大な土地に育まれた多様な地域性

- ・広大な豊岡市の中では、多様な地域性が育まれています。地理的条件も地域によって様々で、それぞれの地域に適した農産物が栽培されています。
- ・水稲をはじめ、高原野菜やピーマン、そば、各地域の伝統野菜・特産野菜など、様々な農産物とそれらを育む多様な地域性は、観光客、消費者にとって大きな魅力となっています。

⑤先行的なスマート農業の取組

- ・コスト削減効果による農家所得向上を図るため、ロボット技術やICTを活用して超省力・高品質生産を実現する新たな農業（スマート農業）を推進する必要があります。
- ・豊岡市では、スマート農業の実現のため、水稲栽培における水管理の省力化や高密度播種、湛水直播技術の実証実験を先行的に行っています。また、ラジコンボートで生育初期のコナギを駆除する手法を実践するなど、効率的な水田除草の技術も模索しています。

◆水田センサー（A）

水位や水温をスマートフォンなどで確認できるようにし、見回り回数の削減、見回り時間の短縮等、水田管理の省力化を図ります。

- ・設置本数：60本（2019年度）
- ・設置面積：約13.5ha（2019年度）

(A)



◆直進キープ機能付田植機（B）

直進時は自動操舵が可能な田植機を使用し、省力化を図ります。

(B)



◆鉄コーティング湛水直播（C）

育苗の手間・コストの削減、作業時間の短縮により規模の拡大を図りやすくなります。また、苗継ぎが不要のため、作業効率が上がります。

(C)



⑥城崎、出石、コウノトリの豊岡などのネームバリュー

- ・2017年度、城崎温泉の外湯めぐりには約86万4千人が訪れています（兵庫県観光客動態調査報告書）。他にも城下町出石の町並みや、コウノトリが野生復帰した豊岡など、全国的に有名な地域や観光地があり、多くの人の関心を引き寄せ、農産物の消費につながります。



4 豊岡農業を取り巻く動向と期待

豊岡市の農業を取り巻く動向や期待は以下の通りです。

①SDGs、持続可能な社会への関心の高まり

2015年9月の国連サミットにおいて、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。このアジェンダでは、先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標として、17の目標とその課題ごとに設定された169の達成基準から構成されているSDGs（持続可能な開発目標）が掲げられています。これまでから、持続可能な社会を目指す取組は行われてきましたが、世界的にますます「持続可能性」は重要視されるようになり、関心が高まっています。

豊岡市は、コウノトリをシンボルにした自然再生や環境創造型農業など生物多様性を守り、地域を持続可能にする取組みを長年続けています。SDGsへの国際的な関心の高まりが、こうした取組の追い風になっていくことが期待されます。

<参考> SDGs（持続可能な開発目標）17の目標



②市民等の食の安全・安心、健康等への関心の増大

輸入食品の有害物質混入問題などをきっかけに、食の安全・安心に対する関心が高まり、安全性等を重視した購買行動が見られるようになってきています。また、食生活や個人の嗜好の面においても健康志向が強まっています。

豊岡市には、無農薬・減農薬の農産物等の認定制度があり、認定された安心・安全な「コウノトリの舞」農産物等が多く生産されています。安全・安心、健康への関心の高まりが、国産農産物、豊岡の農産物の消費拡大につながっていくことが考えられます。

また、2018年に公布された食品衛生法等の一部を改正する法律では、原則として全ての食品等事業者がHACCPに沿った衛生管理に取り組むことが義務づけられました。

③TPP、GAP など日本の農業・食に関わる情勢変化への対応

TPP の発効により、安い農産物が海外から輸入され、国内農産物が価格競争にさらされることが懸念されています。また農産物の取引要件として GAP 認証を求める動きが出てきています。

国内外産地間競争に勝つためのコスト削減、高付加価値化や GAP 認証の取得など、農業や食に関わる日本・世界の情勢変化への対応が求められます。



④農業への関心層や関わりたい人の増加

内閣府が 2014 年度に行った「農山漁村に関する世論調査」によると、都市住民の 3 割が農山漁村地域に定住してみたいと回答しており、2005 年度の 2 割から増加しています。特に、若者やリタイア層の農業への関心が高く、豊岡市の農業にも関心を持ってもらいやすい状況になってきているといえます。

⑤観光交流、インバウンド客の増加

訪日外国人旅行者数は年々増加傾向にあり、2018 年度は初めて 3,000 万人を超えました。今後も増加していくことが予想されており、豊岡でも特に城崎温泉や城下町出石など、観光地への更なる来客が期待できます。農業と観光をどう結び付けるかは、今後の重要な課題となります。



⑥農商工連携、農業参入など、他産業からの注目

他産業と農業との連携や、異業種から農業への新規参入の動きが広がっています。本業として、また企業の CSR 活動として、農業の魅力と将来性に注目が集まっており、他産業とのコラボレーションによる新たな価値の創造が見込まれます。

⑦国の地方創生で農業を成長産業と位置づけ

政府は、農林水産業を成長産業と位置づけ、2013 年に決定された「農林水産業・地域の活力創造プラン」では、農業・農村の所得を 10 年間で倍増させることを目指しています。また、スマート農業の推進などにより、農業を儲かる産業にするための新しい技術の開発が進んでいます。

⑧人口減少、少子高齢化の加速

人口減少や少子高齢化の流れは止まることなく、今後ますます加速していくことが予想されます。それに伴い、農業従事者の減少・少子高齢化や農産物消費量の減少が起これ、生産と消費の両面で規模が縮小していくことが考えられます。

⑨温暖化等の気候変動による農作物への影響

地球温暖化の影響により、農作物の生産に悪影響が起こっていると考えられています。高温や少雨、短時間の大雨などによる農作物の収量減少や品質低下が現実に起これ、農業者の不利益につながっています。低炭素社会の早期実現や、気候変動に適応した品種の開発などが求められます。

第3章 豊岡農業の将来ビジョン

1 将来ビジョンを設定するにあたって

－これまでのコウノトリとの共生社会への挑戦を踏まえて－

豊岡農業の将来ビジョンを設定するにあたり、特に、これまで本市が総力を挙げて取り組んできた「コウノトリとの共生社会」への挑戦の経過を踏まえるべきと考えています。

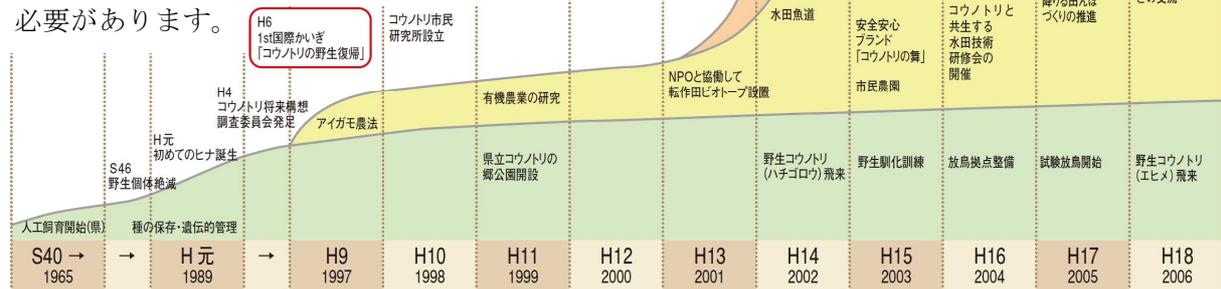
かつて、コウノトリは田んぼの苗を踏み荒らす害鳥と考えられていましたが、同時に瑞鳥ずいちょう（めでたい鳥）として愛される存在でもありました。厳しい自然環境の豊岡では、人と自然が折り合いをつけながら、うまく共生していました。

ところが、近代化とともにほ場整備や農薬使用などから棲みかや餌場を失った日本のコウノトリは数を減らし続け、最後の生息地である本市でもついに野外個体は絶滅してしまいました。

本市では、絶滅前から保護の機運が高まり、半世紀以上にわたって保護、増殖、野生復帰に向けた取組が多く関係者によって行われてきました。「コウノトリも住める豊かな環境」をつくるため、かつての共生を可能としていた暮らしを見つめ直し、科学と行政、地域社会が連携しながら、様々な分野の取組が積み重ねられました。その結果、コウノトリが暮らしの中にある風景は、今や豊岡の人々にとってありふれた日常になっています。

農業分野でも、化学的な肥料や農薬に頼らず、田んぼの生き物を育む「コウノトリ育む農法」などに取り組み、野生復帰への取組に貢献してきました。また、こうした取組が豊岡のブランド価値向上にもつながっています。

しかし、かつての豊かな自然環境はまだまだ失われたままです。コウノトリを受け入れる社会環境も十分に成熟しているとはいえません。こうした取組の経過や考え方について農業者全体、市民全体でもう一度共有し、さらに推進するために、農業分野での新たなビジョンを描く必要があります。

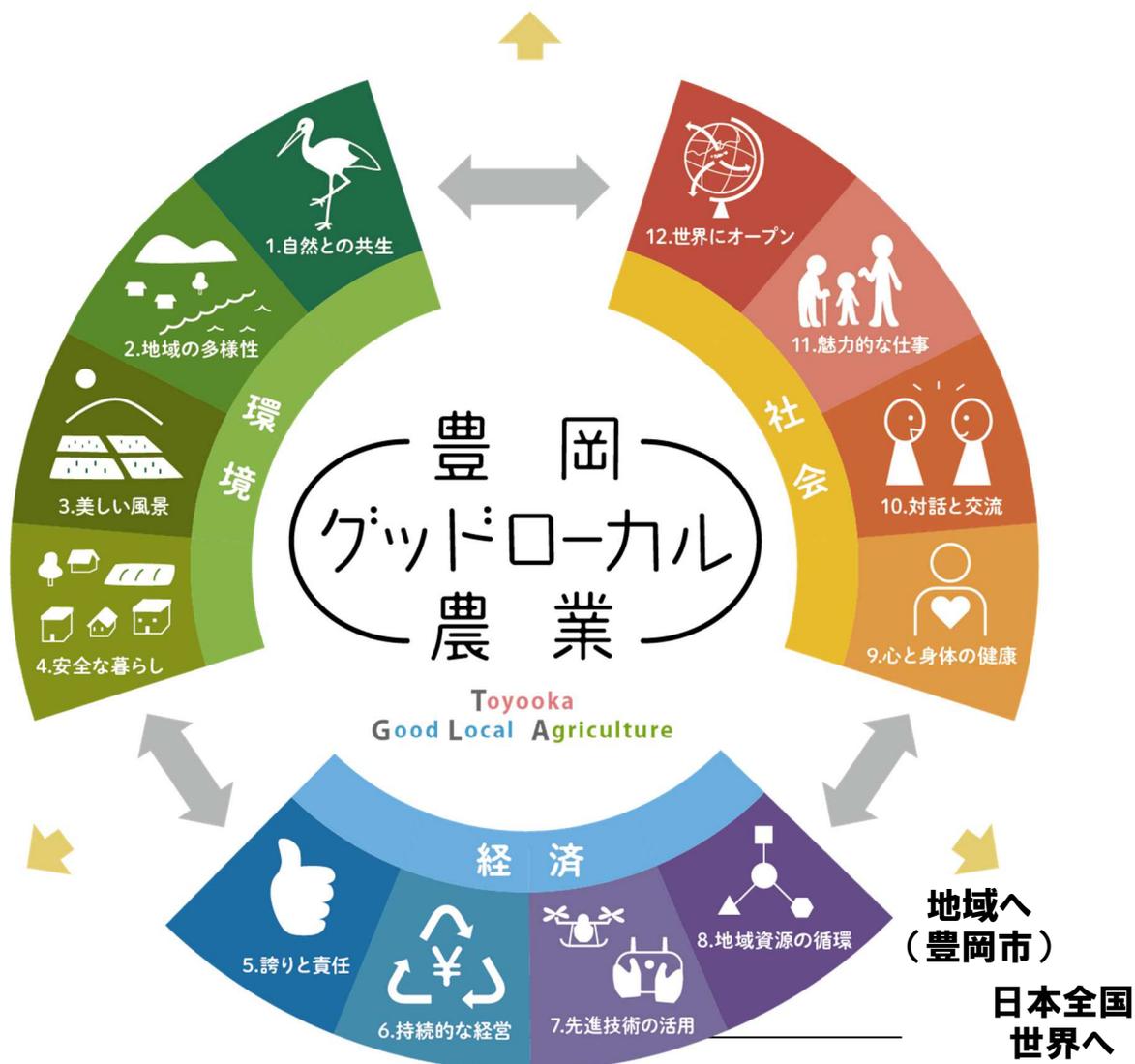


2 豊岡農業の将来ビジョン

豊岡農業の現状や特徴、取り巻く動向、また、これまでの「コウノトリとの共生社会」への挑戦を踏まえて、豊岡農業の将来ビジョンを以下のように設定します。

小さな世界都市・「豊岡グッドローカル農業」

— 持続可能で幸せを感じる社会をめざして —



豊岡市は、豊岡というローカルに深く根ざしながら、世界で輝き、「小さくてもいいのだ」という堂々たる態度のまちを創ることをめざしています。

そんなまちで、『環境』『経済』『社会』をより良くし、持続可能で幸せを感じる社会の実現に貢献する農業のあり方を“豊岡グッドローカル農業”と称し、これを農業に関わる人すべてにとっての共通哲学として、広げていきます。

上の図は、コウノトリ野生復帰のシンボルの1つである人工巣塔をイメージしています。コウノトリのヒナが巣の中で育ち、周辺環境の中で成長し、巣を飛び立って世界へ「幸せ」を運んでいくように、“豊岡グッドローカル農業”を育て、市内に、そして全国や世界に大きく広げていきます。

「豊岡グッドローカル農業」の12の要素

豊岡市がめざす「豊岡グッドローカル農業」は以下の状態が実現されていることをイメージします。

■環境

1.自然との共生



環境負荷が少なく、生き物と共生した農業

2.地域の多様性



地域の歴史、地形や気候風土と調和した農業

3.美しい風景



農地が農地として管理され、古来からの美しい景観が保たれる農業

4.安全な暮らし



農地が持つ公益的機能の発揮による減災効果で、暮らしを守る農業

■経済

5.誇りと責任



安全安心で高品質な食糧を供給するという誇りと責任感に満ちた農業

6.持続的な経営



再生産可能な産業として儲かる農業

7.先進技術の活用



イノベーションで、常にチャレンジする気概のある農業

8.地域資源の循環



異業種と積極的に交流し、地域が賑わう農業

■社会

9.心と身体の健康



地消地産等により、農家も非農家も健康で生涯活躍できる農業

10.対話と交流



地域の非農家や都市住民との交流で、地域を豊かにする農業

11.魅力的な仕事



性別や年齢等にとらわれることなく、誰もが活躍できる農業

12.世界にオープン



小さな世界都市・豊岡を、国内外を問わずに広く知らしめる農業

「豊岡グッドローカル農業」の取組イメージ例

豊岡
グッドローカル
農業

Toyooka Good Local Agriculture

環境 *Good!*

1.自然との共生



2.地域の多様性



3.美しい風景



4.安全な暮らし



★コウノトリ育む農法をはじめとする
環境創造型農業

★水田魚道の設置

★気候変動に対応した
新しい品目の検討

★耕作放棄地の解消

等

★在来品種野菜の生産

★地域一体での草刈り活動

★農地集積でまとまりのある
農村風景を創出

★有害獣対策を兼ねた里山保全



経済 Good!



★インバウンド客の農村への誘客

★スマート農業の実施

★コウノトリの舞等認証取得

★豊岡産農産物でアスリートを応援する活動

★経営管理ソフトの導入や青色申告の実施

★半農半Xや2地点居住による農業 等



社会 Good!



★SNSで情報発信

★農産物の輸出等による世界への情報発信

★農福連携の取組

★女性が活躍する農業

★定年帰農

★学校へ出前講座、食育の実施

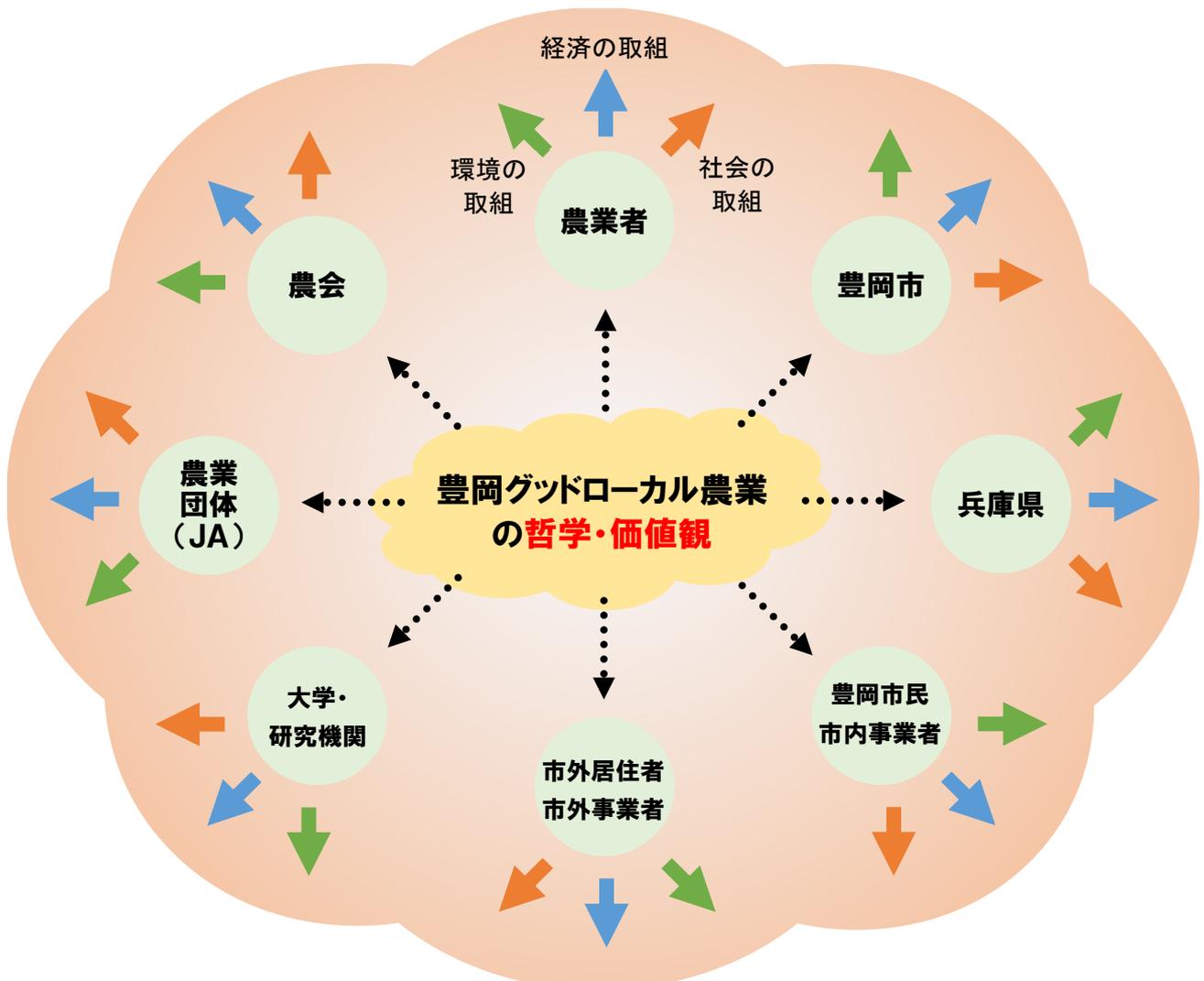
★農家×非農家との交流、都市住民との交流 等



みんなで育て、広げる「豊岡グッドローカル農業」

- ・「豊岡グッドローカル農業」を豊岡市の農業に関わる人すべてにとっての共通の哲学と位置づけます。
- ・農業者はもちろん、それ以外の市民、事業者など豊岡市の農業に関係するあらゆる人や団体が、この共通の哲学のもと、「豊岡グッドローカル農業の 12 の要素」を実現するための取組を行っていきます。
- ・あらかじめ決められた取組を行うのではなく、まずは、各自の立場や状況に応じて、12 の要素に対応した取組を自らの創意工夫により行っていきます。
- ・他の実施者等との実践状況の共有や意見交換等により、自らの取組の見直しを行い、徐々に取組をより良いものにしていきます。
- ・このように、できる人から、できることから始め、それを発信・共有し、他の人や他の取組に広げ、みんなでよりよい取組に育てていくイメージです。
- ・その結果、長期的には、こうした「豊岡グッドローカル農業」の取組が全国に知られ、世界に認められ、豊岡の農業や都市の価値が高まることをめざしています。

豊岡グッドローカル農業の拡がりのイメージ



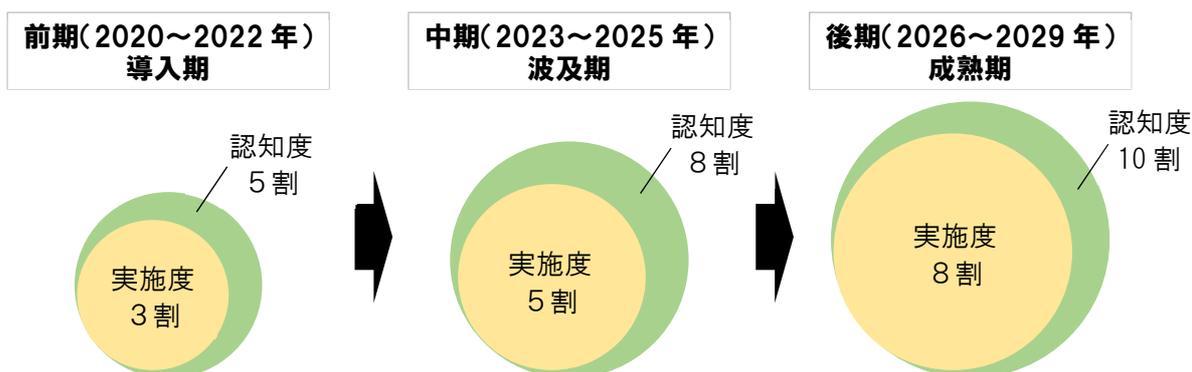
3 将来ビジョンの実現に向けたシナリオ

- ・将来ビジョンの実現に向けて、豊岡グッドローカル農業が10年間かけて広がっていくシナリオとその手段を描きます。

(1) 農業者における「豊岡グッドローカル農業」の普及シナリオ

- ・ビジョン実現に向けて中心的な役割を担う農業者への普及シナリオです。

前期・中期・後期の10年間で、認知度は、5割・8割・10割と上がっていき、実践については3割・5割・8割と向上していきます。



※1 認知度は、後述するアンケートで、「よく知っている」、「知っている」と答えた人の割合。

※2 実施度は、後述するアンケートで、12要素のうち、環境・経済・社会のそれぞれの要素を1つ以上実践していると答えた人の割合。

(2) 「豊岡グッドローカル農業」の普及に向けた取組イメージ

普及シナリオに沿って将来ビジョンを実現していくための取組イメージは、下記の通りです。

【知る】

① 推進本部として「豊岡グッドローカル農業推進室(仮称)」を設置

- ・事業推進していくための本部として、豊岡市コウノトリ共生部農林水産課内に「豊岡グッドローカル農業推進室(仮称)」を設けます。

[宣言の例]

② 市として「豊岡グッドローカル農業宣言」を発表

- ・まずは市として、12要素のうち、どの要素に対して
 どのような取組を行うか、行っているかを記した宣言
 を発表します。

豊岡グッドローカル農業宣言

私たち●●は豊岡市の考え方に賛同し、下記の取組を行います。

① . . .	⑤ . . .	⑨ . . .
② . . .	⑥ . . .	⑩ . . .
③ . . .	⑦ . . .	⑪ . . .
④ . . .	⑧ . . .	⑫ . . .

【行う】

③ 農業者等による「豊岡グッドローカル農業宣言」の作成と実践を促進

- ・個々の農業者や、非農家も含む集落の地域団体など、様々な経営体に対して「豊岡グッドローカル農業宣言」の作成を促します。特に、認定農業者や集落営農等など、豊岡市の農業を先導している経営体に率先して作成していただくよう促します。

- ・「豊岡グッドローカル農業宣言」をすることによる農業者等の取組意欲の向上や提供商品・サービスの付加価値の向上、また、市民が宣言を目にすることにより、認知度の向上を図ります。

④豊岡グッドローカル農業支援メニューの設置

- ・農業に関する既存の補助金等の支援策に加え、新たな支援メニューを設けます。

[支援策の例]

- ・農村景観の保全への貢献に対する支援 (③美しい風景)
- ・農業と他産業との連携に対する支援 (⑧地域資源の循環)
- ・農福連携の取組に対する支援 (⑩魅力的な仕事)

【続ける】

⑤豊岡グッドローカル農業大会の開催と豊岡グッドローカル農業賞の選定・表彰

- ・大会を開催し、優秀者の選定を行います。優秀者には表彰や賞品贈呈等を行います。
- ・大会を実施者に励みにしてもらい、この取組を農業者や市民で共有し、市全体として盛り上げることを目的です。
- ・実施者同士の情報共有や連携による新たな展開も期待されます。

[開催の例]

- ・3年に一度、開催。
- ・参加者は自薦で参加。書類と大会でのプレゼン発表で審査。
- ・農家部門、市民・事業者部門にそれぞれ個人の部、団体の部を設置。

⑥豊岡グッドローカル農業実施者と市民・移住希望者の交流促進

- ・実施者が市内でどのような取組を行っているか、市民や豊岡への移住希望者が豊岡の農業について何を考えているかなど、実施者と市民・移住希望者の相互理解を深めるため、交流を促進します。

【拡げる】

⑦SNSやWebページで市内外へ発信

- ・SNSアカウントやWebページを市が作成し、取組内容、普及状況などについて、情報発信を行います。
- ・農業スクール受講者や新規就農者、移住者の募集などの情報も合わせて発信します。

⑧学校教育での発信・啓発

- ・子どもたちや子育て世代に、ふるさと豊岡の農業について知ってもらえるよう、教育プログラムを導入します。

(3) 農業者の「豊岡グッドローカル農業」の普及度の計測

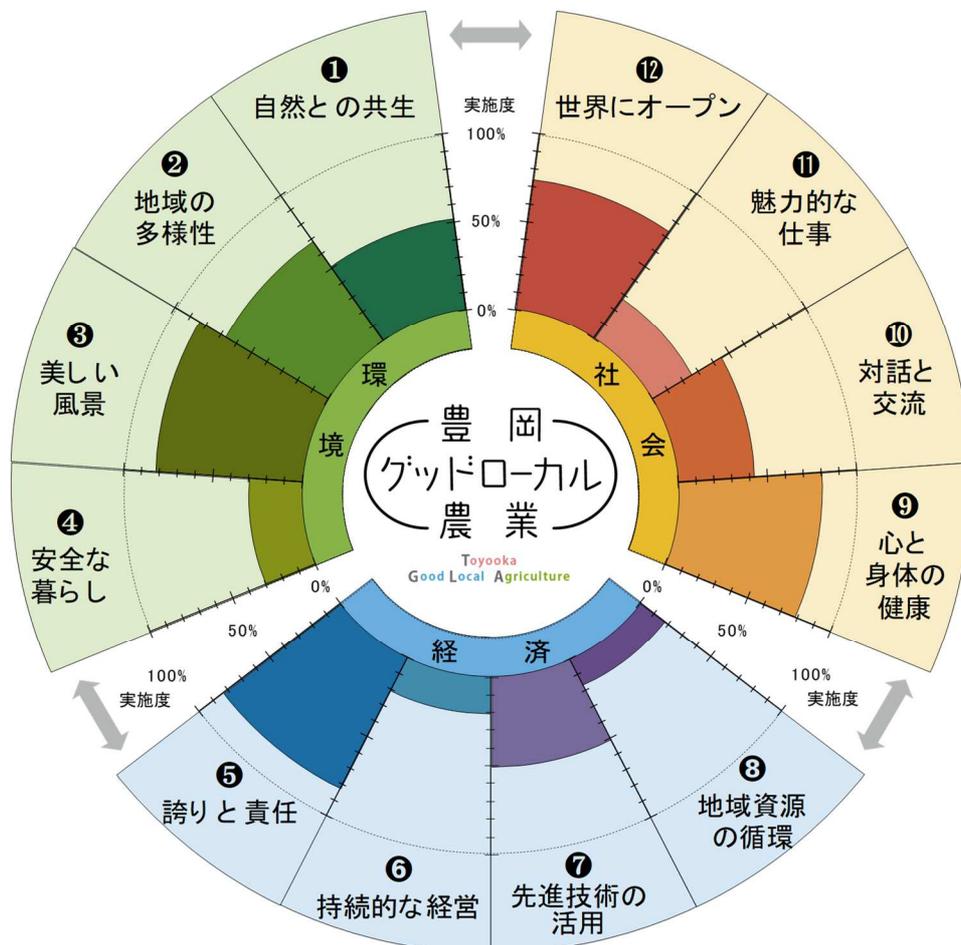
■「豊岡グッドローカル農業」アンケートの実施

- ・農家が毎年提出する営農計画書に加える形でアンケートを行い、普及度の計測を行います。
- ・アンケートでは、認知度と、最近1年間・今後1年間でどのような取組を実践してきたか、実践する予定かを聞きます。
- ・アンケートに回答することは、農業者にとって、自らが行っている農業について振り返り、今後取り組もうとしていることを自覚する機会となります。

[豊岡グッドローカル農業アンケートの例]

問1. あなたは豊岡市が唱えている「豊岡グッドローカル農業」を知っていますか。					
①全く知らない	②あまり知らない	③やや知っている	④知っている	⑤よく知っている	
				✓	
問2. 「豊岡グッドローカル農業」の12要素のうち、あなたが最近1年間で実践したもの、今後1年間で実践しようと思うものを全て選んでください。また、実践している・実践しようと思う取組を具体的に記入してください。					
要素		最近1年間		今後1年間	
		実践した	取組(記述)	実践予定	取組(記述)
環境		✓	...	✓	...

「豊岡グッドローカル農業」の実施度の表現イメージ



第4章 戦略目的と主要手段と取組方策

1 3つの戦略目的と6つの主要手段

・「小さな世界都市・豊岡グッドローカル農業」を実現するために、以下の3つの戦略目的と6つの主要手段を設定します。



2 取組方策の体系



3 取組方策

- ・ 6つの主要手段を具体的に展開するための取組方策を以下のように設定します。



主要手段①

多様な気候風土、資源を尊重し、生き物と共生する農業を拡げる

各地域の気候風土・歴史的条件によって培われた多様性を尊重し、生き物・自然と共生する農業の実現に向け、市は以下の取組を重点的に行います。

取組1-1 コウノトリ育む農法等環境創造型農業の取組面積拡大

豊岡市が長年取り組んできたコウノトリ育む農法を中心とした環境創造型農業について、その作付面積を増やし、かつ品質向上と技術向上を進めます。

コウノトリ育む農法の有機 JAS や無農薬栽培の促進、コウノトリの舞ブランド化について促進します。



取組1-2 「豊岡グッドローカル農業」のプロモーション(エシカル消費の推進)

単にモノとして農産物を販売するのではなく、「価値」としてそれに共感し、求める、市内外・国内外のファンと言える消費者に届けるためのプロモーション戦略を立て、推進します。

首都圏など大都市でのトッププロモーション、オーガニックに意識の高い国等への輸出、豊岡を訪れるインバウンド客などへのプロモーションなど効果的な取組を進めます。



取組1-3 地域に適した作物の生産振興と品目研究

但馬牛やピーマン、キャベツなどこれまで取り組んできた品目について充実・強化を図るとともに、地域で大切に維持保存されてきた品目である地域固有種などについても産地化を検討します。

さらに、温暖化など気候変動を見通して、新品種について試験研究機関等と連携し、研究を行います。

取組1-4 地域資源との連携

城崎温泉、城下町出石など一定の知名度と集客力がある地域資源と農業が連携することにより、両者にとってメリットがあり、豊岡の価値を高める取組を行います。



主要手段②

防災と環境保全の役割を持った、美しい農村風景を創造する

水害などの災害から人やまちを守り、大気や気温などを整える適切な農地環境と、誰もが美しいと思える農村風景を実現するため、市は以下の取組を重点的に行います。

取組2-1 農村環境の維持管理負担の軽減化

農地以外の畦畔や水路など農業用施設の維持管理が非常に負担の大きい作業になっており、それが農地集積化を阻害している現状もあります。それらを解消するための取組として、管理負担軽減のための技術・機械の導入や日本型直接支払交付金の活用、維持管理に関する規範の見直し促進などを進めます。

取組2-2 美しい農村風景の保全と管理

美しい農村風景は環境創造型農業を志向し、日本全国や世界からの観光交流を期待する豊岡市としては非常に重要な要素です。その保全と管理の取組として、特に保全すべきエリアの検討や風景保全ガイドラインの作成、中山間地域等直接支払交付金、多面的機能支払交付金制度の効果的な活用、及び環境保全型農業直接支払交付金制度の生き物視点での高次化・活用などを進めます。



取組2-3 条件不利地の対策

担い手の減少・高齢化が進む中で、耕作条件の厳しい場所から耕作放棄地の拡大を少しでも抑制する対応として、特に条件の悪い農地は生物多様性のビオトープ水田化や、除草作業の軽減と家畜のいる懐かしい風景づくり等のための放牧など、現実的な対策を進めます。

取組2-4 鳥獣害対策の充実化

市内で問題が深刻化している農作物への鳥獣害の問題について、有害鳥獣の捕獲体制の強化や、防護柵・捕獲檻等の設置・管理、中型獣対策の強化など対策の充実化を図ります。





主要手段③

先端技術を取り入れ、持続的で誇りと責任ある農業に取り組む人を増やす

先端技術を豊岡に適合した形で導入し、安全安心かつおいしい農産物で人の命と健康を守る責任と誇りある農業を持続的に経営できる人が増えるよう、市は以下の取組を重点的にを行います。

取組3-1 強い農業経営体の継承・育成

豊岡農業を基幹産業として持続的に成長させていくためには、その主要な担い手を増強していく必要があります。

現状の主要な担い手や次世代の担い手候補が集まり、経営や技術等に関して学習・交流する機会の創出や、農業経営体の法人化・事業継承の支援、主要な農業経営体への農地利用集積の促進、働き方改革等の持続可能な農業経営体を目指す活動の推進といった、現在と未来の担い手を育成する取組を進めます。

取組3-2 持続可能な経営体への強化・育成

市内 302 農会のうち、集落営農組織は 52 あり、うち 16 は法人化されていますが、残りの 36 は任意団体です。持続可能な経営を考えた場合、より経営面積を拡大し、スケールメリットによる経営効率をあげるためにも、複数集落を管轄する広域化や、より持続可能な経営体とするための法人化などを進めます。



取組3-3 豊岡らしいスマート農業の推進

ICT 技術や AI 技術の進展等に伴い、全国でスマート農業の普及が急速に進んでいます。本市でも、既に水管理省力化のための水田センサーや直進キープ機能付田植機、鉄コーティング湛水直播などを導入しており、引き続き、評価しながら、関係機関や企業などと連携しつつ、推進していきます。

その際、①豊岡らしい、豊岡ならではの（生き物思想）、②生物多様性への配慮、③持続可能性、④省人化の視点で効果があるかを含めて評価して進めます。また、多額の投資や、それを回収するための無理な規模拡大等、負の連鎖に陥ることがないように配慮します。



取組3-4 新規就農者の確保・育成等【他地域からの移住者を含む】

新規就農者の確保・育成のため、農業スクールの充実化や全国の大学農学部、農業大学校などへの情報発信・人材募集の強化、将来の安全安心な農産物生産を目指す経営者を育てる研修機会の醸成、新規就農人材が地域に根付き、継続的に活躍できるようにフォローする新規就農者支援ネットワークの構築などの取組を進めます。



主要手段④

地域の他産業と連携した農業により、地域経済を活性化させる

地域の観光、福祉、ものづくり産業や新しいビジネスなどと農業が連携し、地域経済全体が活性化するように、市は以下の取組を重点的にを行います。

取組4-1 農泊・農村ツーリズム等の推進

市内の多様で魅力的な農村資源には、観光との連携可能性があります。既に展開されている但東地域や日高地域、竹野地域での取組の充実化を図るとともに、農家民泊等を活用したインバウンド客の受入や、農作物の収穫体験等の体験型ツーリズム、宿泊施設への地元食材の供給など、農村資源を活かしたグリーンツーリズムを推進します。



取組4-2 半農半X型人材の確保・育成

移住定住の取組とも連携し、農業専業の人材だけではなく、キャリアや関心を活かした仕事と農業との兼業で生計を立てるタイプの人材を募集・確保します。そのため、受け入れや定着のための研修を開催するなどの支援を行います。

半農半Xの「X」の例としては、IT、アート、建築や、豊岡の農業・食を魅力的に発信できる写真家、料理研究家、食育マイスター、野菜ソムリエなども想定されます。



取組4-3 農業と連携した新しい取組へのチャレンジ

豊岡の価値を高めると考えられる、さまざまな新しい取組へのチャレンジを実施あるいは支援します。

取組例としては、市内に開学予定の兵庫県立国際観光芸術専門職大学（仮称）との連携や、カバン産業との連携、プロスポーツチームへの食材提供や、農家の重労働をアクティビティ化した都市農村交流、地元食材を使った料理コンテストなどが考えられます。



主要手段⑤

生産者と消費者の相互理解を深め、農業に生きがいを感じる人を増やす

生産者と消費者がお互いをよく理解し、誰もが農業にかかわり生きがいを感じることをできる社会を実現するため、市は以下の取組を重点的に行います。

取組5-1 「地消地産」の推進

地域で食べられるものを地域で生産するという「地消地産」の実践により、流通距離が短いため環境にもやさしく、地域経済にも貢献し、顔の見える関係により安心感や地域社会の安定にも寄与します。

その「地消地産」を推進するために、市内飲食店での食材利用や、直売所・インショップの充実を図ります。



取組5-2 「豊岡グッドローカル農業」の市民サポーターの育成

市内産食材を優先的に購入して、食べ、その魅力を発信するなど、市民の立場から豊岡の農業を応援し、支える人材である「豊岡農業市民サポーター」を育てます。

豊岡農業市民サポーターは、豊岡農業の情報の市内外への発信や、地元農産物のギフトを友人・知人に贈ることによる宣伝、日常的な地元農産物の購入・消費などの役割を期待します。

サポーターを育成する取組としては、豊岡農業の知識や観光客に対する説明・紹介方法などを学ぶ研修会の開催や、PR イベントや観光地での農業交流イベントなど、サポーターが活躍する場の開設・支援などが考えられます。



取組5-3 定年帰農者が活躍できる環境づくり

会社勤めをリタイアした60歳前後の方々には、農業界ではまだまだ若手であることから、定年帰農者向けの農業講座の開催や、農業人材派遣の仕組みの整備など、意欲的な人材が活躍できる取組を行います。

取組5-4 生きがいのある農村地域づくり

農業や地域環境の維持管理等に農家だけではなく非農家も含めてさまざまな人が関わることが、農村環境の維持改善とともに、当事者の健康や生きがいづくり、地域住民の相互理解など、地域の健全な持続性を高めることから、それらに資する農村地域づくりの支援を行います。



主要手段⑥

世界に「豊岡グッドローカル農業」を発信し、農業をあこがれの仕事にする

豊岡の農業の理念や技術を全国・世界へ発信し、子どもたちや若者が共感する、あこがれの職業としての農業を確立していくため、市は以下の取組を重点的に行います。

取組6-1 「豊岡グッドローカル農業」のイメージの発信

移住定住やシティプロモーションの取組とも連携し、各種メディアを活用し、豊岡市の農業の良質なイメージを全国に発信します。

発信媒体はYouTube や Facebook などの SNS が想定されます。また、コンテンツは、現在活躍している農業経営者や、近年就農した新規就農者、女性農業者やリタイア後の帰農者など、多様な農業者のワークスタイルやメッセージ等が想定されます。

取組6-2 多様な人材の確保・活躍の促進

今後も人手不足が深刻化する中で、将来にわたって優れた人材を確保するためには、多様な人材が働きやすい職場環境や、その能力が育ち活躍しやすい仕組みの構築が不可欠です。

そのため、女性の就農・活躍支援や農福連携の推進、外国人雇用の検討や省力化のための機械化・IoTの推進などに取り組みます。

取組6-3 「豊岡グッドローカル農業」に共感し、発信できる子どもたちの育成

市内の幼稚園、小中学校、高校など、豊岡で育ち、将来、市内外で活躍する子どもたちに、豊岡の農業をよく知ってもらうことは、未来の豊岡の農業にとって非常に重要です。

コウノトリ育む農法・無農薬栽培米や地元野菜など、学校給食等への豊岡産農産物の供給を推進し、また、学校での出張講座や食体験、現場での農業体験など、食育活動を充実化することで、豊岡農業を理解し、共感し、他の人に発信できる子どもたちを育成します。



取組6-4 世界に向けた「豊岡グッドローカル農業」の発信

これまでのコウノトリとの共生社会への挑戦や、それを踏まえた「豊岡グッドローカル農業」の理念や取組について、世界に向けて情報発信を行い、あわせて農産物の輸出もさらに進めていきます。



第5章 ビジョンの推進

1 関係者の役割

「豊岡グッドローカル農業」を実現するためには、豊岡の農業にかかわる様々な関係者が、それぞれの役割を果たすことが重要です。

■果たすべき役割

豊岡市	<ul style="list-style-type: none">○豊岡グッドローカル農業推進室（仮称）の設置、運営○農業ビジョンを踏まえた実施計画の策定・推進○取組に関する情報発信○実施者への財政的支援○「豊岡グッドローカル農業」の普及度の計測、認知の推進○各関係主体との情報共有、取組に向けた連携の推進○新規就農者の研修窓口運営
農業者	<ul style="list-style-type: none">○各自の創意工夫による取組の実施○自身の取組に関する情報の積極的発信○他の農業者、組織、主体と連携した取組○新規就農者の研修受入・雇用
農会	<ul style="list-style-type: none">○地域住民や農業者で「豊岡グッドローカル農業」について考える機会の創出、考え方の共有○各自の創意工夫による取組の実施○他の農業者、組織、主体と連携した取組○新規就農者の研修受入・雇用
農業団体（JA）	<ul style="list-style-type: none">○多様な農業者に対するきめ細かい技術的指導・経営支援○豊岡市産農産物の販売・流通○農業活性化と生活利便に資する農業・生活資材の販売・提供○農業者への先進技術・サービスの紹介、斡旋○農業者と市民・消費者、農村と都市の交流・連携の仲介
兵庫県	<ul style="list-style-type: none">○実施者への技術的・財政的支援○取組に関する情報の発信

■期待される役割

<p>市内 事業者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○豊岡産農産物の積極的利活用（飲食業、小売業等） ○豊岡の農業と連携したビジネスの実践（観光、福祉等） ○豊岡市内での経済循環と資源循環への貢献 ○CSR、CSVによる貢献
<p>豊岡市民</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○豊岡農業のサポーターとしての認識を持つ（食・農への理解） ○豊岡産農産物の積極的購入・消費 ○農業への積極的関わり（農業体験、食育など） ○取組や豊岡の農業に関する情報の発信・拡散
<p>市外 事業者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○豊岡の農業と連携した取組、ビジネスの開発・実践 ○CSR、CSVによる貢献 ○取組に役立つ技術・サービスの開発・提供
<p>市外 居住者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○豊岡産農産物の購入・消費 ○取組への共感、応援、情報拡散 ○豊岡市への観光、定期的訪問、移住、定住
<p>大学・ 研究機関</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○取組に役立つ技術・サービス開発、提供 ○豊岡の土地・気候に合った農作物品種の開発

2 進行管理

(1) 委員会の設置

○目的

「豊岡市農業ビジョン」を推進するために、主に「豊岡グッドローカル農業」の普及に向けた取組の検討や進捗確認、見直しを行う「豊岡市農業ビジョン推進委員会」を設置します。

○メンバー

行政、関係機関、事業者、農業者、市民等による構成を検討します。

○事務局

豊岡市コウノトリ共生部農林水産課 豊岡グッドローカル農業推進室（仮称）

○その他

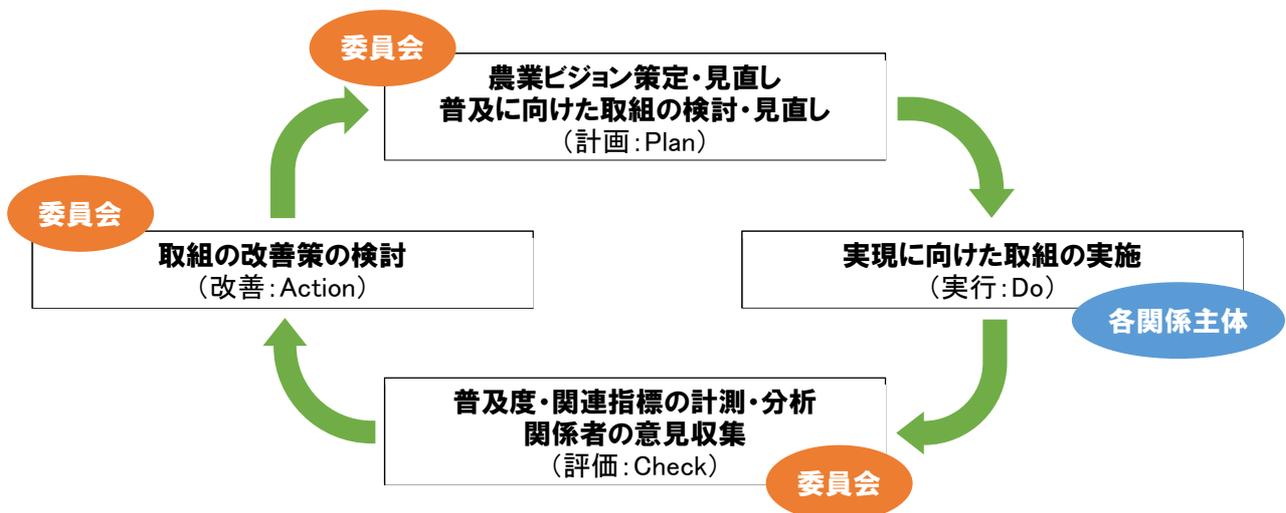
専門的な検討や調査を行う場合や、既存の概念にとらわれない評価・提案を行う場合などに、大学等の研究機関の協力を得るようにします。

(2) 進行管理の仕組み

「豊岡市農業ビジョン推進委員会」で「豊岡グッドローカル農業」の普及に向けた取組を検討し、関係主体がそれぞれ実現に向けた取組を実施していきます。

その後、普及度およびその他の関係する指標の計測や、関係者との意見交換などから、委員会で取組を評価します。

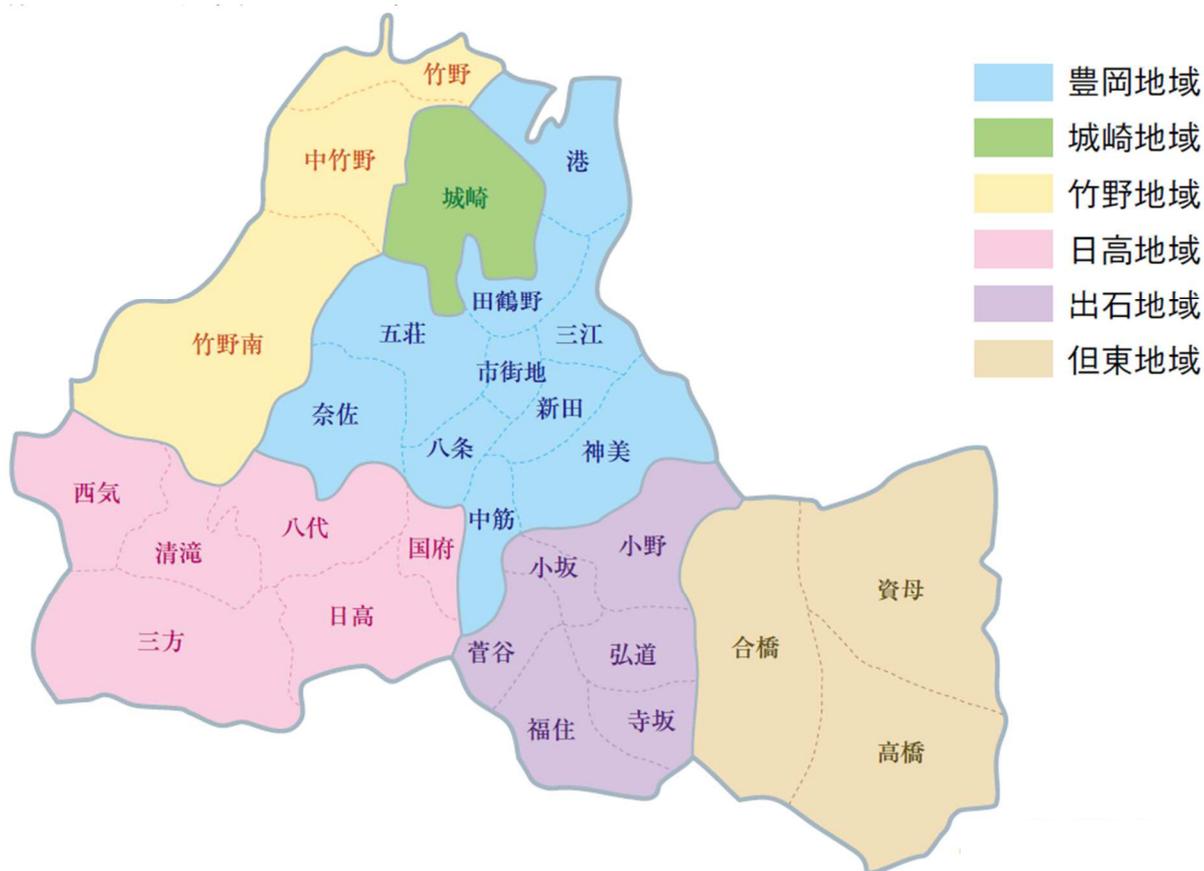
さらに委員会で改善策の検討、ひいてはビジョンや普及に向けた取組の見直しを行い、より良い取組を実行していくことで、滞りないようビジョンを推進します。



資料編

1 市内6地域別の農業の現状に関する基礎情報

市内6地域の区分図



市内6地域別の総農家数と経営耕地面積

	単位	豊岡地域	城崎地域	竹野地域	日高地域	出石地域	但東地域	市全体
総農家数	戸	1,336	123	443	1,330	574	649	4,455
(市合計に対する割合)	%	31.3%	2.7%	9.0%	27.3%	13.8%	15.8%	100.0%
総農家の経営耕地面積	ha	1,245	64	214	867	584	407	3,381
(市合計に対する割合)	%	38.0%	1.8%	5.7%	24.6%	18.0%	11.9%	100.0%

(1)豊岡地域

		単位	豊岡地域	市全体
農家情報	① 総農家数	戸	1,336	4,455
	うち販売農家数	戸	796	2,543
	(市合計に対する割合)	%	31.3%	100.0%
	60歳以上の割合	%	75.4%	77.1%
	70歳以上の割合	%	42.7%	41.6%
	② 農業就業人口	人	992	2,965
	60歳以上の割合	%	86.9%	90.0%
	70歳以上の割合	%	58.3%	60.9%
	③ 総農家の経営耕地面積	ha	1,245	3,381
	うち販売農家	ha	1,148	3,020
	(市合計に対する割合)	%	38.0%	100.0%
	④ 耕作放棄地面積	ha	145	502
	(市合計に対する割合)	%	28.8%	100.0%
	販売農家	ha	42	146
自給的農家	ha	37	139	
土地持ち非農家	ha	66	218	
⑤ 後継者がいない農家の戸数	戸	409	1,311	
販売農家合計に対する割合	%	51.4%	51.6%	
⑥ 後継者がいない農家の経営耕地面積	ha	568	1,470	
販売農家合計に対する割合	%	49.4%	48.7%	
経営体情報	⑦ 農業経営体数	経営体	811	2,606
	⑧ 農業経営体の経営耕地面積	ha	1,292	3,468
	⑨ 1農業経営体あたりの平均経営耕地面積	ha	1.59	1.33
	⑩ 耕作面積が3ha以上の経営体数	経営体	82	208
	(地域合計に対する割合)	%	10.1%	8.0%
	⑪ 耕作面積が3ha以上の経営体の耕作面積	ha	643	1,535
(地域合計に対する割合)	%	49.8%	44.3%	
組織情報	⑫ 認定農業者数	戸	51	134
	⑬ 認定農業者の経営耕地面積	ha	560	1,174
	(農業経営体の経営耕地面積(⑧)に対する割合)	%	43.3%	33.8%
	⑭ 農会数	農会	92	302
	⑮ 集落営農組織数	組織	17	52
	任意団体数	組織	10	36
	集落営農法人数	組織	7	16
⑯ 集落営農組織の経営耕地面積	ha	209	344	
(農業経営体の経営耕地面積(⑧)に対する割合)	%	16.2%	9.9%	

出典

- ・農家情報、経営体情報：農林業センサス（2015）
- ・組織情報：市資料（2019）

(2)城崎地域

		単位	城崎地域	市全体
農家情報	① 総農家数	戸	123	4,455
	うち販売農家数	戸	68	2,543
	(市合計に対する割合)	%	2.7%	100.0%
	60歳以上の割合	%	83.8%	77.1%
	70歳以上の割合	%	48.5%	41.6%
	② 農業就業人口	人	91	2,965
	60歳以上の割合	%	95.6%	90.0%
	70歳以上の割合	%	69.2%	60.9%
	③ 総農家の経営耕地面積	ha	64	3,381
	うち販売農家	ha	53	3,020
	(市合計に対する割合)	%	1.8%	100.0%
	④ 耕作放棄地面積	ha	25	502
	(市合計に対する割合)	%	5.0%	100.0%
	販売農家	ha	7	146
自給的農家	ha	7	139	
土地持ち非農家	ha	11	218	
⑤ 後継者がいない農家の戸数	戸	31	1,311	
販売農家合計に対する割合	%	45.6%	51.6%	
⑥ 後継者がいない農家の経営耕地面積	ha	18	1,470	
販売農家合計に対する割合	%	33.3%	48.7%	
経営体情報	⑦ 農業経営体数	経営体	69	2,606
	⑧ 農業経営体の経営耕地面積	ha	61	3,468
	⑨ 1農業経営体あたりの平均経営耕地面積	ha	0.88	1.33
	⑩ 耕作面積が3ha以上の経営体数	経営体	2	208
	(地域合計に対する割合)	%	2.9%	8.0%
	⑪ 耕作面積が3ha以上の経営体の耕作面積	ha	13	1,535
(地域合計に対する割合)	%	21.3%	44.3%	
組織情報	⑫ 認定農業者数	戸	0	134
	⑬ 認定農業者の経営耕地面積	ha	0	1,174
	(農業経営体の経営耕地面積(⑧)に対する割合)	%	0.0%	33.8%
	⑭ 農会数	農会	10	302
	⑮ 集落営農組織数	組織	2	52
	任意団体数	組織	1	36
	集落営農法人数	組織	1	16
⑯ 集落営農組織の経営耕地面積	ha	11	344	
(農業経営体の経営耕地面積(⑧)に対する割合)	%	17.7%	9.9%	

出典

- ・農家情報、経営体情報：農林業センサス（2015）
- ・組織情報：市資料（2019）

(3)竹野地域

		単位	竹野地域	市全体
農家情報	① 総農家数	戸	443	4,455
	うち販売農家数	戸	230	2,543
	(市合計に対する割合)	%	9.0%	100.0%
	60歳以上の割合	%	80.4%	77.1%
	70歳以上の割合	%	45.7%	41.6%
	② 農業就業人口	人	295	2,965
	60歳以上の割合	%	94.6%	90.0%
	70歳以上の割合	%	66.8%	60.9%
	③ 総農家の経営耕地面積	ha	214	3,381
	うち販売農家	ha	172	3,020
	(市合計に対する割合)	%	5.7%	100.0%
	④ 耕作放棄地面積	ha	52	502
	(市合計に対する割合)	%	10.3%	100.0%
	販売農家	ha	12	146
	自給的農家	ha	17	139
	土地持ち非農家	ha	22	218
⑤ 後継者がいない農家の戸数	戸	98	1,311	
販売農家合計に対する割合	%	42.6%	51.6%	
⑥ 後継者がいない農家の経営耕地面積	ha	80	1,470	
販売農家合計に対する割合	%	46.6%	48.7%	
経営体情報	⑦ 農業経営体数	経営体	231	2,606
	⑧ 農業経営体の経営耕地面積	ha	172	3,468
	⑨ 1農業経営体あたりの平均経営耕地面積	ha	0.74	1.33
	⑩ 耕作面積が3ha以上の経営体数	経営体	7	208
	(地域合計に対する割合)	%	3.0%	8.0%
	⑪ 耕作面積が3ha以上の経営体の耕作面積	ha	34	1,535
(地域合計に対する割合)	%	19.8%	44.3%	
組織情報	⑫ 認定農業者数	戸	4	134
	⑬ 認定農業者の経営耕地面積	ha	17	1,174
	(農業経営体の経営耕地面積(⑧)に対する割合)	%	9.9%	33.8%
	⑭ 農会数	農会	42	302
	⑮ 集落営農組織数	組織	1	52
	任意団体数	組織	1	36
	集落営農法人数	組織	0	16
⑯ 集落営農組織の経営耕地面積	ha	0	344	
(農業経営体の経営耕地面積(⑧)に対する割合)	%	0.0%	9.9%	

出典

- ・農家情報、経営体情報：農林業センサス（2015）
- ・組織情報：市資料（2019）

(4)日高地域

		単位	日高地域	市全体
農家情報	① 総農家数	戸	1,330	4,455
	うち販売農家数	戸	695	2,543
	(市合計に対する割合)	%	27.3%	100.0%
	60歳以上の割合	%	79.7%	77.1%
	70歳以上の割合	%	43.0%	41.6%
	② 農業就業人口	人	803	2,965
	60歳以上の割合	%	91.4%	90.0%
	70歳以上の割合	%	60.3%	60.9%
	③ 総農家の経営耕地面積	ha	867	3,381
	うち販売農家	ha	743	3,020
	(市合計に対する割合)	%	24.6%	100.0%
	④ 耕作放棄地面積	ha	151	502
	(市合計に対する割合)	%	30.1%	100.0%
販売農家	ha	37	146	
自給的農家	ha	48	139	
土地持ち非農家	ha	66	218	
⑤ 後継者がいない農家の戸数	戸	356	1,311	
販売農家合計に対する割合	%	51.2%	51.6%	
⑥ 後継者がいない農家の経営耕地面積	ha	366	1,470	
販売農家合計に対する割合	%	49.3%	48.7%	
経営体情報	⑦ 農業経営体数	経営体	711	2,606
	⑧ 農業経営体の経営耕地面積	ha	845	3,468
	⑨ 1農業経営体あたりの平均経営耕地面積	ha	1.19	1.33
	⑩ 耕作面積が3ha以上の経営体数	経営体	50	208
	(地域合計に対する割合)	%	7.0%	8.0%
組織情報	⑪ 耕作面積が3ha以上の経営体の耕作面積	ha	348	1,535
	(地域合計に対する割合)	%	41.2%	44.3%
	⑫ 認定農業者数	戸	26	134
	⑬ 認定農業者の経営耕地面積	ha	143	1,174
(農業経営体の経営耕地面積(⑧)に対する割合)	%	16.9%	33.8%	
組織情報	⑭ 農会数	農会	70	302
	⑮ 集落営農組織数	組織	11	52
	任意団体数	組織	8	36
	集落営農法人数	組織	3	16
	⑯ 集落営農組織の経営耕地面積	ha	66	344
(農業経営体の経営耕地面積(⑧)に対する割合)	%	7.8%	9.9%	

出典

- ・農家情報、経営体情報：農林業センサス（2015）
- ・組織情報：市資料（2019）

(5)出石地域

		単位	出石地域	市全体
農家情報	① 総農家数	戸	574	4,455
	うち販売農家数	戸	351	2,543
	(市合計に対する割合)	%	13.8%	100.0%
	60歳以上の割合	%	74.6%	77.1%
	70歳以上の割合	%	37.6%	41.6%
	② 農業就業人口	人	397	2,965
	60歳以上の割合	%	88.7%	90.0%
	70歳以上の割合	%	59.9%	60.9%
	③ 総農家の経営耕地面積	ha	584	3,381
	うち販売農家	ha	544	3,020
	(市合計に対する割合)	%	18.0%	100.0%
	④ 耕作放棄地面積	ha	67	502
	(市合計に対する割合)	%	13.3%	100.0%
	販売農家	ha	22	146
	自給的農家	ha	15	139
	土地持ち非農家	ha	30	218
⑤ 後継者がいない農家の戸数	戸	185	1,311	
販売農家合計に対する割合	%	52.7%	51.6%	
⑥ 後継者がいない農家の経営耕地面積	ha	241	1,470	
販売農家合計に対する割合	%	44.3%	48.7%	
経営体情報	⑦ 農業経営体数	経営体	364	2,606
	⑧ 農業経営体の経営耕地面積	ha	634	3,468
	⑨ 1農業経営体あたりの平均経営耕地面積	ha	1.74	1.33
	⑩ 耕作面積が3ha以上の経営体数	経営体	44	208
	(地域合計に対する割合)	%	12.1%	8.0%
	⑪ 耕作面積が3ha以上の経営体の耕作面積	ha	335	1,535
(地域合計に対する割合)	%	52.8%	44.3%	
組織情報	⑫ 認定農業者数	戸	37	134
	⑬ 認定農業者の経営耕地面積	ha	292	1,174
	(農業経営体の経営耕地面積(⑧)に対する割合)	%	46.1%	33.8%
	⑭ 農会数	農会	39	302
	⑮ 集落営農組織数	組織	6	52
	任意団体数	組織	5	36
	集落営農法人数	組織	1	16
⑯ 集落営農組織の経営耕地面積	ha	7	344	
(農業経営体の経営耕地面積(⑧)に対する割合)	%	1.1%	9.9%	

出典

- ・農家情報、経営体情報：農林業センサス（2015）
- ・組織情報：市資料（2019）

(6)但東地域

		単位	但東地域	市全体
農家情報	① 総農家数	戸	649	4,455
	うち販売農家数	戸	403	2,543
	(市合計に対する割合)	%	15.8%	100.0%
	60歳以上の割合	%	74.9%	77.1%
	70歳以上の割合	%	36.7%	41.6%
	② 農業就業人口	人	387	2,965
	60歳以上の割合	%	91.5%	90.0%
	70歳以上の割合	%	63.8%	60.9%
	③ 総農家の経営耕地面積	ha	407	3,381
	うち販売農家	ha	360	3,020
	(市合計に対する割合)	%	11.9%	100.0%
	④ 耕作放棄地面積	ha	63	502
	(市合計に対する割合)	%	12.5%	100.0%
	販売農家	ha	26	146
	自給的農家	ha	15	139
	土地持ち非農家	ha	22	218
⑤ 後継者がいない農家の戸数	戸	232	1,311	
販売農家合計に対する割合	%	57.6%	51.6%	
⑥ 後継者がいない農家の経営耕地面積	ha	198	1,470	
販売農家合計に対する割合	%	55.0%	48.7%	
経営体情報	⑦ 農業経営体数	経営体	420	2,606
	⑧ 農業経営体の経営耕地面積	ha	462	3,468
	⑨ 1農業経営体あたりの平均経営耕地面積	ha	1.10	1.33
	⑩ 耕作面積が3ha以上の経営体数	経営体	23	208
	(地域合計に対する割合)	%	5.5%	8.0%
	⑪ 耕作面積が3ha以上の経営体の耕作面積	ha	160	1,535
(地域合計に対する割合)	%	34.6%	44.3%	
組織情報	⑫ 認定農業者数	戸	16	134
	⑬ 認定農業者の経営耕地面積	ha	162	1,174
	(農業経営体の経営耕地面積(⑧)に対する割合)	%	35.0%	33.8%
	⑭ 農会数	農会	49	302
	⑮ 集落営農組織数	組織	15	52
	任意団体数	組織	11	36
	集落営農法人数	組織	4	16
⑯ 集落営農組織の経営耕地面積	ha	51	344	
(農業経営体の経営耕地面積(⑧)に対する割合)	%	11.1%	9.9%	

出典

- ・農家情報、経営体情報：農林業センサス（2015）
- ・組織情報：市資料（2019）

2 策定体制と経過

■豊岡市農業ビジョン策定検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 豊岡市の10年後の農業を守る柱を定める計画（以下「農業ビジョン」という。）を策定するため、豊岡市農業ビジョン策定検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(協議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について、意見を述べ、検討し、又は協議する。

- (1) 農業ビジョンに関する事項
- (2) 前号に掲げるもののほか、農業ビジョンの策定に関し市長が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員15人以内で組織する。

(委員)

第4条 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 農畜産物の生産、加工及び販売等に携わる者
- (3) 関係団体又は機関の職員
- (4) 前3号に掲げるもののほか、市長が必要と認める者

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から第2条に規定する協議が終了する日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等の職務)

第6条 委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選任する。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会は、その協議を遂行するため必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴き、又は必要な説明若しくは資料の提供を求めることができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、コウノトリ共生部農林水産課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、告示の日から施行する。

(招集の特例)

- 2 この要綱の施行後最初に開かれる委員会は、第7条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

(失効)

- 3 この要綱は、委員会が第2条に規定する協議を終了した日限り、その効力を失う。

■豊岡市農業ビジョン策定検討委員会 委員名簿

※2年任期（2018～2019年度）

莊林 幹太郎 委員長
(学習院女子大学副学長)

東京に住む私がこの委員会にどのような貢献ができたかは定かではありませんが、私自身は委員会での委員の皆様の議論から、豊岡農業の奥深さを学ばせていただいたことに心から感謝しています。

平峰 英子 副委員長
(株)坪口農事未来研究所代表取締役/
認定農業者/女性農業士)

私たちは、ビジョンの目的である「環境」「経済」「社会」のより良い循環を意識した環境創造型農業を進める必要があると思います。活気に溢れ、世界に誇れる豊岡市の農業を一緒に実現しましょう。未来に繋がれ「豊岡グッドローカル農業」!!

綿田 謙
(こうのとり風土わくわくファーム代表/
認定農業者)

食はいのち、食材もまたいのち。農業はいのちを育む仕事ゆえ無限の可能性を秘めた素晴らしい仕事です。手を取り合い地域社会を盛り上げていきましょう。

尾藤 光
(農)府市場農産代表理事/認定農業者)

この地で生まれ育ち、地域農業を生業としてしています。環境創造型農業を経営の柱ととらえ、将来の担い手を育て、地域に貢献できればと思う。この策定本を通して、自分たちの暮らしを見つめ、地元を盛り上げたい。

木村 尚子
(一社)暮らしの学校農楽 代表理事)

農業は単なる産業ではなく、持続可能な社会を維持するための大切な営みの一つと考えます。豊岡の農業者がその担い手として誇りを持って生きていけるよう、このビジョンが一助となれば嬉しいです。

中野 めぐみ
(青年農業士)

コウノトリが絶滅から野生復帰を果たしたように、自然の有難さ、またその自然で育まれた農産物をいただける有難さを忘れずに、豊岡の農業が活気にあふれ、ますます発展して行くことと願っています。

霜倉 和典
(有)あした代表取締役/認定農業者/
農業経営士)

私生活環境と農業は切り離して考えることはできない。地域農業の将来ビジョンを具体化し、行政・JA・農家がそれぞれの枠を超え新たな「カタチ」の営農活動の展開が必要ではないだろうか。

植田 博成
(有)植田農園代表取締役/認定農業者/
青年農業士)

今回農業ビジョンに参加させていただき豊岡市は環境、文化、教育、そして地域のあるべき姿を見ることができたのではないかと考えています。農業にとって自立した若い農業者が育っていくことを切に願います。

吉見 慶二

(株)トリドールメリリー牧場取締役

「コウノトリ育む農法」など、環境創造型農業を更に優位的なものとし、「出口」のある「生産」とするために、実需者との連携や他産地とのすみ分け、そして「豊岡グッドローカル農業」の推進こそが、明るい未来を創造することと考えます。

田中 一也

(KDDI(株)ビジネスIoT推進本部
地方創生支援室)

スマート農業は、『さまざまな製品やサービスから自己の目的に合った一番よい製品、サービスを選択する』ことが重要です。就農人口の減少などの根本的な解決にはなりません、『異常気象が続く今がスマート農業を検討するタイミング』だと感じます。

小谷 芙蓉

(NPO法人たけのかぞく事務局長)

豊岡ならではの自然、生き物と共生した農業について、誇りを持って発信していけば、市内外から必ずその魅力に惹きつけられる次世代の担い手が出てくると信じています。

田端 恵子

(豊岡農業改良普及センター経営課長)

世界中から応援を受け、豊岡の農業を盛り上げるビジョンができあがりました。Aggressive, flexible&passion で支援していきます。

谷垣 康

(たじま農業協同組合担い手支援課長)

一人一人の小さな力や多様な考え方が集まることで、将来の豊岡の農業に大きな力になります。農業をされている方も農業に関心のある方も、「グッドローカル農業」に参加して、将来の豊岡の農業をみんなで作っていきましょう。

豊岡
グッドローカル
農業

Toyooka Good Local Agriculture



■策定経過

[委員会等]

日程	会議等	主な検討内容等
2018年 11月14日	豊岡市農業ビジョン 策定検討委員会 基調講演	テーマ：『先頭ランナー』豊岡の農業を守る 戦略を考えるためのいくつかの原 理的な視点 講演者：学習院女子大学 副学長 荘林幹太郎氏
	第1回豊岡市農業ビジョン 策定検討委員会	・計画策定について ・基礎調査の結果等
2019年 1月16日	第2回豊岡市農業ビジョン 策定検討委員会	・ビジョン全体の方向性について ・地域別の現状と方向性について
2019年 2月8日	庁内ワーキンググループ会 議	・豊岡グッドローカル農業の特徴について ・ビジョン実現への戦略について ・地域別の方向性について
2019年 3月8日	第3回豊岡市農業ビジョン 策定検討委員会	・豊岡市農業ビジョン骨子案について
2019年 7月5日	第4回豊岡市農業ビジョン 策定検討委員会	・豊岡市農業ビジョン素案について
2019年 8月29日	第5回豊岡市農業ビジョン 策定検討委員会	・豊岡市農業ビジョン素案について
2019年 10月16日	第6回豊岡市農業ビジョン 策定検討委員会	・豊岡市農業ビジョン素案について
2020年 2月26日	第7回豊岡市農業ビジョン 策定検討委員会	・豊岡市農業ビジョン案について

[調査]

日程	調査	主な調査対象等
2018年10月～ 2020年3月	統計等の調査・分析	・農林業センサス 等
2018年10月～ 2019年3月	豊岡農業ビジョン策定 アンケート調査	・農会（対象数：303） ・認定農業者（対象数：129） ・集落営農組織（対象数：42）
2018年10月	豊岡農業ビジョン策定 ヒアリング調査	・農業関係の団体・個人を対象に実施

3 用語集

用語	解説内容	ページ
----	------	-----

【あ行】

IoT	Internet of Thingsの略でモノのインターネットのこと。世の中に存在する様々なモノがインターネットに接続され、相互に情報をやり取りして、自動認識や自動制御、遠隔操作などを行うこと。	28
-----	---	----

【か行】

環境創造型農業	「土づくり技術」を基本に「化学肥料低減技術」、「化学農薬低減技術」の3技術を同時に導入する農業生産方式のこと。 ※3技術それぞれに「堆肥施用」、「局所施用」、「熱利用土壌消毒」のいずれかの技術を導入	1・9・12・15・ 23・24・40・41
環境保全型農業 直接支払交付金	「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」に基づき、農業の持続的発展と農業の有する多面的機能の健全な発揮を図るための、環境保全に効果の高い営農活動に対する支援。	24
基幹的 農業従事者	自営農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、ふだんの主な状態が「主に仕事（農業）」である者。	2
グリーン ツーリズム	農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。	26
グローバルGAP	G.A.P.(ギャップ) とは、GOOD(適正な)、AGRICULTURAL(農業の)、PRACTICES(実践)のこと。GLOBALG.A.P.(グローバルギャップ)認証とは、それを証明する国際基準の仕組みのこと。	6・7
経営耕地面積	農林業経営体が経営している耕地(けい畔を含む田、樹園地及び畑)であり、自ら所有し耕作している耕地(自作地)と、他から借りて耕作している耕地(借入耕地)の合計面積をいう。なお、土地台帳の地目や面積に関係なく、実際の地目別の面積をさす。 ※経営耕地＝所有地(田、畑、樹園地)－貸付耕地 －耕作放棄地＋借入耕地	2・3・4・6・8・ 32
耕作放棄地	以前耕作していた土地で、過去1年以上作物を作付け(栽培)せず、この数年の間に再び作付け(栽培)する意思のない土地。	2・15・24
コウトリ育む 農法	おいしい農産物と多様な生きものを育み、コウトリも住める豊かな文化、地域、環境づくりを目指すための農法。(安全な農産物と生きものを同時に育む農法)	1・4・5・6・7・ 11・15・23・ 28・41

用語	解説内容	ページ
----	------	-----

【さ行】

CSR	「企業の社会的責任」。企業が社会や環境と共存し、持続可能な成長を図るため、その活動の影響について責任をとる企業行動であり、企業を取り巻く様々なステークホルダーからの信頼を得るための企業のあり方を指す。	10・30
CSV	「Creating Shared Value」の略で、「共有価値の創造」、「共通価値の創造」等と訳される。企業の事業を通じて社会的な課題を解決することから生まれる「社会価値」と「企業価値」を両立させようとする経営フレームワークのこと。	30
持続可能な開発目標(SDGs)	2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なもの。	1・9
集落営農	集落を単位として、農業生産過程の全部又は一部について共同で取り組む組織。	5・6・8・18・25・42
食育	生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することができる人間を育てること。	16・26・28・30
水田魚道	水田と水路をつなぐ人工的な水路のこと。設置することで、魚が水路から水田に入出りできるようにする。	15

【た行】

多面的機能支払交付金	農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進することにより、農業・農村の有する多面的機能が今後とも適切に維持・発揮されるようにするとともに、担い手農家への農地集積という構造改革を後押しするもの。	24
地消地産	地域で消費するものを地域で生産すること。	14・16・27
中山間地域等直接支払交付金	農業生産条件の不利な中山間地域等において、集落等を単位に、農用地を維持・管理していくための取決め(協定)を締結し、それにしたがって農業生産活動等を行う場合に、面積に応じて一定額を交付する仕組み。	24

用語	解説内容	ページ
TPP	環太平洋パートナーシップ(Trans-Pacific Partnership)の略称。アジア太平洋地域において、モノの関税だけでなく、サービス、投資の自由化を進め、さらには知的財産、金融サービス、電子商取引、国有企業の規律など、幅広い分野で21世紀型のルールを構築する経済連携協定。	10
低炭素社会	温室効果ガスの排出を自然が吸収できる量以内にとどめる(カーボン・ニュートラル)社会を目指すもの。 2007年5月、日本政府は、「クールアース50」において、世界全体の排出量を現状に比して2050年までに半減するという長期目標を掲げている。	10
湛水直播	種籾を水田に直接播種する技術。 春作業の省力化(育苗・移植作業不要)が図られるため、通常の移植栽培に比べて労働時間や生産コストの削減効果がある。また、収穫期が1～2週間程度遅れることから、移植栽培と組み合わせることにより作業ピークを分散し、担い手1人当たりの経営面積の拡大に有効である。	8・25

【な行】

日本型 直接支払交付金	「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」に基づき、農業・農村の多面的機能の発揮のための地域活動や営農の継続等に対して支援を行い、多面的機能が今後とも適切に発揮されるようにするとともに、担い手の育成等構造改革を後押ししていくもの。	24
認定農業者	農業経営基盤強化促進法に基づき、市町村が地域の実情に即して効率的・安定的な農業経営の目標等を内容とする基本構想を策定し、この目標を目指して農業経営改善計画を策定し認定された農業者のこと。	5・6・8・18・ 40・42
農福連携	障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組。 農福連携に取り組むことで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もある。	16・19・28
農林業センサス	農林業の生産構造や就業構造、農山村地域における土地資源など農林業・農山村の基本構造の実態とその変化を明らかにし、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料となる統計を作成し、提供することを目的に、5年ごとに行う調査。	1・2・3・4・ 33・34・35・ 36・37・38・42

用語	解説内容	ページ
----	------	-----

【は行】

HACCP	原材料の受入れから最終製品までの各工程ごとに、微生物による汚染、金属の混入などの危害要因を分析(HA)した上で、危害の防止につながる特に重要な工程(CCP)を継続的に監視・記録する工程管理システム。	9
販売農家	経営耕地面積が30a以上又は農作物販売金額が年間50万円以上の農家。	1・2・3
ビオトープ	「特定の生物群集が生存できるような、特定の環境条件を備えた均質なある限られた生物生息空間」のこと。池沼、湿地、草地、里山林等さまざまなタイプがある。	24

【や行】

有機JAS	<p>農薬や化学肥料などの化学物質に頼らないで、自然界の力で生産された食品を表しており、農産物、加工食品、飼料及び畜産物に付けられるマーク。</p> <p>有機食品のJAS規格に適合した生産が行われていることを登録認証機関が検査し、その結果、認証された事業者のみが有機JASマークを貼ることができる。</p>	6・23
-------	--	------

Good!

豊岡市農業ビジョン（2020～2029）

編集・発行／豊岡市コウトリ共生部農林水産課

〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町2番4号

TEL:0796-23-1127

FAX:0796-24-7801

URL:<http://www.city.toyooka.lg.jp>